KBBフィーチャリング・つめ隊ビデオ
障害者はおまえだ!! 完成記念企画

「身障者プロレス」を見た。

渡辺和博

僕は先日身障者プロレスというのを見にいって来た。

会場は下北沢の駅から20分くらい住宅街を歩いた○○という所だった。

僕がこのプロレスを知ったのは、月刊宝島のどっかのページだった。

さて会場に着くともう30人ほどの人が列を作っていて、その服は黒い人が多かった。

駅から20分も歩いた会場で服の黒い人が多くあるイベントというのは、10年前なら暗黒舞踏と相場が決っていたけど、今や身障者プロレスなのだろうか。

会場を見回すと、1/3ほどが編集者などの業界人で、熱心にビデオを回している。

10分くらいして、第一試合が始まり、獣神マグナムとかサンボ慎太郎とかのレスラーがファイトするのであった。

途中レスラーがエキサイトしてリングサイドのマイクを持って大声を出したりするのは、けっこうプロレスしていた。

僕はちゃんとレスラーがプロレスしようとしているのに感心しながら、小学生の時近所にいた小児マヒの子のことを思い出した。

その小児マヒの子は長男(16才)で家にいたのだが弟は健常者で僕は弟(小学5年生)と同級だった。

毎朝僕と弟はいっしょに登校していたのであるが、ある日彼がなかなか家から出て来ない日があった。

僕はいつも表で待っていたのだが、その日はつい玄関を開けて家の中に入ってしまった。

ガラガラと開けた玄関の向こうの六畳ほどの居間では、立ち上がれない兄が木のハンガーを振り回して戦い、その回りを弟が走り回りながら攻撃していた。

たいていの子供のケンカがそうであるように、兄の一撃が弟の足に命中して弟が泣き出し、その戦いは終った。

僕はあまりの光景にどうしていいか分からずにいたのだが、弟は僕を見つけるとすぐに泣き止み、何くわぬ顔でランドセルを背負って僕と登校した。

僕は今回このプロレスを見て、子供のケンカみたいだけど、わざわざ子供のケンカを見せているのは、これはこれでスゴイのではないかと思った。

しかし、あのお兄ちゃんは今どうしているのだろうか、今でも弟とプロレス?してるかナと、僕は帰りの京王線の中で思ったのだった。

illustration: KAZUHIRO WATANABE

ガロビデオ第4弾「障害者はおまえだ」

天願大介監督

障害者は素材として面白い。魅力的だし、力があります。

ガロはね以前から読んでいたんですがね、買った記憶というのが余り無いのですよ。どこかにあったり、借りたり、拾ったりしてましたね。沖縄の大学に行って、あまり売ってないのですよ。ガロは。

やがて新潮社に入って、新雑誌「03」をやろうということになって、定期購読をする雑誌は何が良いか、じゃあ「ガロ」にしようと。それに根本さんと仕事する縁があって、漫画は勿論読んでいましたが、会って話しをして根本さんの部屋で彼の本棚を見たらかなりの部分で僕の持っている本と重なっているんですね。

藤本卓也の「君が欲しい」、司一郎の盤だったと思うんですが、たまたま手に入れて、まだ沖縄にいた頃ですが、大変な衝撃を受けて、それに触発されて芝居の台本を書いたりしてました。

世代的にも同じだし、根本さんとは意気投合しましてね、まあ「03」ではいい仕事ができたと思ってます。漫画の特集号の時にAV女優に梶原一騎のキャラクターの絵をボディペインティングしたのは根本さんですよ。梶原一騎の秘密という特集記事でした。僕は梶原一騎が好きだったんですよ。彼の論告求刑も行きましたし、勿論判決の時も会社をサボって行きましたよ。お葬式の時も、一周忌も行った。その時に梶原グッズを配ってくれたんですよ。直筆の歌が入ってる湯飲みとテレホンカード。根本さん欲しがるだろうな。

自主映画を撮っていた頃は当然まだ新潮社の社員で、初めての商業映画「アジアンビート・アイ・ラブ・ニッポン」も有給休暇とゴールデンウィークを使って撮りましたよ。その前に「妹と油揚」という16ミリの自主映画を撮ったんですが、それを林海象さんが観てくださって「アイ・ラブ・ニッポン」になったわけです。

担当重役が一本に限りという条件で監督することを認めてくれたんです。その後「03」が潰れましてね、僕は「新潮45」という雑誌の編集部に配属になった。新潮社という歴史と伝統がある処で、なかなか映画を一本撮ったあとでは居づらいのですよ。別に「45」や新潮社がいやだった訳ではないのですが、もっとわがままというか、積極的に動ける場所をということで今の「ヘッドオフィス」という事務所を仲間と創った訳です。

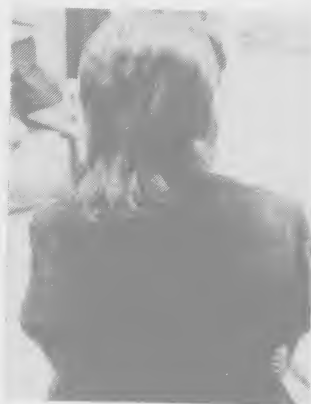
「ヘッドオフィス」のオープンニングパーティーを昨年の4月に行なったのですが、その時に根本さんが来て、つぎはどんな映画を撮りたいのと尋ねて、で僕は身障者が主人公のアクション映画が撮りたいと答えたんです。するとかれは、障害者プロレスを知っているかと言ったんです。実は明日なんだというわけです。それで次の日の観に行くと、まあ僕の想像とは異なりましたがなにかこうズンと気持ちの中に来るものがあって、主宰者の北島君に名刺を渡して来たのです。

北島君と話している内に、ああこれは廻そうかなと思って。お金が無いのでビデオでドキュメントを撮り始めて。根本さんはパンフレットに載っている「つめ隊」というバンドに始めから興味があったようで、デモテープは無いかとか盛んに問い合わせてましたよ。ドキュメンタリーの方はかなり時間をかけて取材をして現在編集作業中です。

天願大介プロフィール

五九年、東京生まれ。琉球大学卒業後、新潮社に入社。学生時代より八ミリ映画を自主制作。「草を刈る男」「考えてはいけない」「真智子の秘密」などの短編作品はマニアの間でカルト的人気を誇っている。九〇年、初の十六ミリ映画「妹と油揚」をPFF（ぴあフィルム・フェティバル）アワードに出品。審査員特別賞と最優秀男優賞を受賞。根本敬が「水木さんの貸本漫画の味わい」と評したコミカルホラーで、再映を望む声が大きい。この作品は九一年のバンクーバー国際映画祭にも正式招待された。PFFアワードの審査員のひとりであった林海象に抜擢され、長編映画「アジアンビート／アイ・ラブ・ニッポン」の脚本・監督を担当。その他プロモビデオ、テレビドラマの演出・監督としても活躍。現在障害者プロレス団体のドキュメント「超障害者宣言（仮題）」制作中。また水木しげるの大ファンでもあり、『特事』と共同で全水木ファン狂喜の企画あり。乞うご期待。

つめ隊を初めて観たのは昨年の8月、プロレス興行の時で、ちょうど4カメ入れて撮影中でした。そこで浪ちゃんが、アドリブでパフォーマンスを始めたんです。それを観て僕は確信しました。これはいける。

僕はとにかくこれは撮影をしていなくてはと思ってたんです。するとある日根本さんから電話がきて、今度クアトロでイベントをやるんだ、是非参加して欲しいと。僕は正直にいって、「つめ隊」はうまい、あるいは豊かな音楽であるとは思わないですが、ある力強さがあるんで、これは見せてやろうかと思ってましたし。あとはもう自然にここまで来たという感じですね。

基本的には撮るものは素材だと思っています。勿論その素材には意志も感情もあるんですが、撮る時は一個の素材だと思ってます。ただ自分が好きな素材じゃないと面白くないですよ。何でも素材だけれども、その素材に対して僕の思い入れとか愛があると思うんです。向こうからもこちらへの訴えかけがあって、ある種の信頼関係の中で仕事ができればベストですね。素材という言葉はあまりよくないかもしれないですが、切りとって編集してしまえばそれはもうやはり素材なんですよ。

やはり障害者は素材として面白いと思います。魅力的だし、力があります。

無視したり、見えないふりをするのが一番障害者にこたえるんだそうです。無関心であると言うことが一番酷いことですよ。今回のビデオにはSMの女王様が浪ちゃんをいたぶるシーンがありますが、彼女は身体を使って浪ちゃんとの関係を作っていこうとしているんですよ。つまりLeeさんが平手で殴る、大宮さんが水に漬ける、そのほうが無視をしているよりはるかに関係が深いのですよ。見えないふりをして、すこし見えると無関心を装うよりは、正面切って叩きつぶすほうが愛があるんじゃないかと、逆説的ですがね。

浪ちゃんには、これは僕の作品であって僕は本気でやりますから貴方もそのつもりでいなさい、と言ったんです。妥協はしないから覚悟しろと脅かしたんです。すると浪ちゃんは、わかりました。なんでもやりますといいましたよ。かれはよく頑張りましたよ。やはり役者ではないので、本当に近いことをやらないと成立しないんですよ。彼が障害者を代表しているんじゃなくて、浪貝という男が本気の所を見せて欲しいと思ってましたから。

踏まれても蹴られても、じっと睨む。お金も地位も名誉も、何もない。素手です、素手で戦う。その素手も麻痺している。何も失うものもないがプライド、誇りだけはあって、それだけは失うわけにはいかない。そんなギリギリの感じをメルヘン仕立てにしたつもりなんです。

僕は浪ちゃんはカッコイイとおもいますよ。こいつには勝てないなと。歩く姿、話す姿、すごく惹かれますよ。例えば話すとき、健常者は簡単に言葉がでますが、彼は苦労をするんですよ。だから気持ちがグッと先に来て後から言葉がでてくる。それはやはり強いですよ。言語障害には色々差がありますが、彼らとつき合っているとやがて始めは分からなかった言葉がだんだん伝わるようになるんですよ。そして全て伝わるようになります。時間がかかるというだけなんです。

浪ちゃんは全身に伝えようという意志がありますよ。マイクを掴むことから既に彼の意志を我々は感じるわけですよ。それを見て僕はああ、かっこいいなあと。ある意味で障害を持って生まれてきたということは、表現者として大きな武器を与えられたと考えてもいいんじゃないかと思います。

女王の中の女王

李楼蘭インタビュー

根本さんは奴隷の素質があります

――これ、ガロの最新号です（女王様に丸尾末広特集を差し出す）。知り合いの女王様の間では丸尾さんの人気が高いとお聞きしたんですが。

女王様　すごい人気ありますよ。年賀状がこの絵だったりとか。SM雑誌とかによく描いてますよね。不気味ですもんね。根本さんのも載ってるんですか。

――ええ。

女王様　でもね、アタシにマンガ家とか画家とかで感想を言わせた初めての人ですよ。何言われても、いいとか悪いとか触れないようにするんですけど。「汚すぎる」とかってアタシが言ってから高橋（女王様のマネージャー）に「珍しいですね」って言われたんです。「すごいな」とかって（笑）。まあ、いいにしろ悪いにしろ、アタシから絵に関しての感想が出たっていうのはすごいって。

――根本さんは奴隷の素質は。

女王様　あるんじゃないですか。相当（笑）。

――今回「障害者はおまえだ！」に女王様の出演が決まったことを根本さんに教えたら、たまたま根本さんが女王様の昔からの大ファンで。「えっ！女王様が出るの！ちょっと待ってよ」って自分の家からビデオを持ってきて見せてくれて。「この人だよ。大ファンでさあ」って（笑）。ガロのマンガ家で、今AV監督やってる平口広美も女王様のファンで、彼に「今度撮影やるよ」って言ったら「ぜひ見学に行かせてくれ」って（笑）。結局来れなかったんで残念がってましたが。

女王様　いわゆるオタク系にファンが多いんですかね。

――そういうわけでもないと思うんですが、ガロの作家には結構多いかも知れませんね（笑）。

女王様　たぶん、一般的でないっていうのが、そのへんに受ける原因じゃないかと思うんですけど。

――女王様はビデオなどで、演技している部分はあまりないわけですよね。

女王様　ないですね。ビデオに関しては、意識して自分自身を盛り上げるっていう部分はありますけど、基本的には演技は出来ない人ですから。「暴虐のバイブルⅢ」っていうビデオを撮ったときに、清水大敬っていう男優さんいますよね。あの人を使ってやったんですけど、彼はもう、マニアとかそういうんじゃなくて、役者としてお願いしたんです。彼は役者ですからこういう設定でこうしてくださいって言ったら、それをそのまま再現出来るんですよ。それを見て、アタシにも演技の心得があったらもっと面白いのを撮れたかなって思ったぐらいだから。すごいですよ、逆にアタシなんかから見ればね、演技を出来る人っていうのは。ただ、マニアックな人に言わせれば、演技じゃないからいいっていう部分があるみたいで（笑）。

アタシは精神的なサディストなんです

――今回の撮影はかなりソフトでしたよね。

女王様　カット割りのあるやり方って初めてだったから、逆にアタシの方が戸惑っちゃって。普通は会話から始まって、会話からじめに移行していくわけなんですけど、会話がなくていきなり「じゃ、殴ってください」、「はい、ムチ打ってください」と言われると、アタシとしてはたたく根拠がないんで、結局演技っぽくなっちゃいましたね。中には肉体派（笑）というか、理屈なんて要らないからとにかく殴らせろっていうタイプの女王様も確かにいるんですけど、アタシの場合それが出来ないんですよ。

――女王様のクラブに「説教プレイ」ってありますよね。

女王様　あれは一時期そういう「たたいてください」みたいのばっかり来ちゃって、普通だったらたぶん、たたいてくれって言われたらそのとおりにすれば楽ですよね。でもそれが出来ないからお話だけっていうのをやってたことがあって。実際にやってたのはホンの数カ月だったんですけど。アタシのイメージで、痛いことをするとかハードだとかっていう部分があると思うんですよ。ビデオなんかだと痛い部分だけを強調するから、会ったら針を刺されるんじゃないかとか、ムチでたたかれるんじゃないかとかいうイメージが固定しちゃってると思うんだけど。例えばビデオでは十個ぐらい技があったりしても、実際はビンタ一回しかしなかったというパターンの方が多いんです。プレイをする、二人っきりでお部屋の中に入った場合は、みんな痛いっていう感覚はないみたいですね。言葉がメインですから。だからSMイコール、ムチとかっていうものじゃないんですよね。ナチの例でいうと、人体実験をやるタイプは肉体的な体罰のみのサディストなんですよ。ヒットラータイプは精神的なサディストなんですよね。アタシの場合はヒットラータイプなんですよ。

――かえってそういう、メンタルな部分を責められた方がこたえるんじゃないかって根本さんとも話したんですが。

女王様　だから、アタシなんかは、一切ローソク、ムチの類を持たずに密室で二人っきりでプレイをする方が好みなんです、本来は。ただ、変なね、「エゴマゾ」とアタシは言っ

「掟－暴虐の聖書」

女王様の世界がぎっしり詰まったＣＤブック！李楼蘭自身の作詞作曲によるオリジナル三曲，エッセイ，ショートストーリー，ＳＭ実況中継も収録された全編李楼蘭の世界！

発売元：シネマジック
定価：￥3，900（税込）

てるんですけど（笑）、エゴイスティックに自分の好みのことだけをアタシに強制する人がいやだからマスコミに対してハードだって言ってるわけ。そうすると、ハードだっていうのを聞いてアタシの所に来ようと思うヤツはもうハナから出来上がってるわけですよね。そういうことは初めから要求しないですから。

――ＳＭプレイというのは、知的じゃないと楽しめないですね。

女王様　そうですね。だからアタシがもっとも嫌いなタイプというのは、まず一番最初に若いってことですね。相手にアタシが求めるのは結構クリエイティブなものだったりとか、繊細な神経だったりするわけです。若いとどうしても「まだ甘いぞ」みたいな（笑）。もっと性風俗でも女の遊びでもしていろいろ経験した後に会ったら良かったねみたいな。年がいってればいってるほどいいですよ。相手としては。

――浪ちゃんは相手としてはどうでしたか。

女王様　年齢的には若いですよね。身障者だからって事は全然問題にはならないし。アタシがやってたクラブにも身障者の会員って結構多いんですよ。どうしてかよく分からないんですけど、たぶん最初に来るときは普通の性風俗のお店とおなじようなノリで来たと思うんですよ。で、たぶん間違えて来てるんだけど、それをアタシはまず言葉で入っていきますから、真剣に相手の特徴とか性格をアタシがつかもうとしなかったらＳＭにならないんですよ。まず相手を知るってことから始めるから、身障者の人にしてみれば、自分のことを親身になって考えてくれるっていうふうに思っちゃうんですよ。アタシは自分が楽しみたいから相手のことを知ろうと思うんだけど、彼らにはそういうふうに言ってくれる人がいないから、ハマっちゃうっていったらおかしいんですけど健常者よりもハマりやすいですね。精神的に、寄り掛かるのが得意っていうか（笑）。だけど身障者の人ってすごく甘えてる人が多いんですけど、ＳＭをやるとそれが直りますよね。結局、まず嫌われたくないっていう気持ちが出てきますよね。そのためにはアタシの嫌なことはしないとか、アタシの好みに合うように自分を変えていこうと思うんですよね。それは何も身障者に限ったことではないんですけど、身障者の場合、その反応が早いですね。

――お話を伺ってると、性風俗というよりサイコセラピーというか。

女王様　そうなんです。前にアタシが使ってた名刺の肩書が「サイコトレーナー」っていうんです。

ねじれた人の方が面白いですね

――浪ちゃんは、まだ若いからか「とにかく女王様は恐かった」って。

女王様　そういうバイブレーション、アタシのちょっとした不機嫌な部分とかを人一倍感じるんじゃないかなというか、いつも神経過敏状態になってるんじゃないかと思うんだけど。ただ、ああいうねじれた性質の人の方がアタシとしては面白いですね。なんでもない人だったら恐いと思いませんからね。心に引っかかるものがあるから、恐いと思うわけですから。ＳＭに向いている性質ですよね。芸術家タイプの人に多いんですよね。絵を描く人とか。普通の人よりテンションを高く保つことが出来るとか、感性が豊かであるとか。そうじゃないとＳＭの会話が出来ないんですよ。

――女王様はもうすぐ引退されるわけですよね。

女王様　「女王・李楼蘭」は四月二四日のパーティーをもってマスコミから消えます。

――あの、聞きにくいんですが、もう気に入った奴隷が何人か出来て、満足したのでやめるという噂を耳にしたんですが（笑）。

女王様　それはもちろんありますよ（笑）。ただ、これからも奴隷を増やすつもりはありますよ。例えば、根本さんが奴隷になりたいって言うんでしたらもちろん会いますし（笑）。

――根本さんも喜ぶと思います（笑）。今日はありがとうございました。

九三年四月十二日
ツァイトオフィスにて

李女王様プロフィール
出生地・年齢不詳。高校生の頃、貿易商の父を通じてナチマニアのドイツ人と知合い自らの資質に開眼。以後真性の女王様として斯界に君臨。身長一八〇センチ。魅惑的な肢体と機知溢れる会話で各方面に熱狂的な信奉者を持つ。また作詞作曲、イラスト、文筆と多才を発揮。女王様引退以後は別のペンネームで文筆業に専念する意向。ペンネームは「勝手に捜しなさい」とのこと。

つめ隊のブレーン

北島行徳インタビュー

ボランティアは大嫌いなんですよ

― まず初めに、つめ隊の名前の由来をお聞きしたいんですが。

北島　「あった会」っていう、障害者のバンドを応援するグループがあったんですよ。そこで「あったかいうた大募集」っていうのがありまして、障害者やボランティアから歌詞を募集して障害者のグループに歌ってもらおうっていうのがあったんですよ。で、同じような活動は数年前からあって、今頃になってまたそういうことをやるのか、だったらこっちはつめ隊っていうのをつくってやろうってことで「つめたいうた大募集」をやったんですが、誰も送ってこなくて（笑）。しようがないんで僕が詩を三曲ぐらい書いてカツヲ&ブレーンバスターズの秋谷くん達に作曲してもらったんですよ。そういう意味では既成の価値観に難癖つけるような歌詞が多いですね。ボランティアをやっていながらも、僕はボランティアが大嫌いなんですよ。うそっぱちとまでは言わないですけど、ずっと同じことをしてそれだけで満足している人達の集まりですから。だから社会との、一般の人達との差は開くばかりですし、その差を埋めようとする努力すらしないですから。そういう人達がいまだに威張ってる世界ですからね。だからそういった部分では勝負しないぞというか。違う部分で勝負してやるっていうのがあって始めたんで。

― ビデオにも収録されている「障害者年金ブルース」をはじめとして、浪ちゃんが歌っているほとんどの歌詞は北島さんが書かれてますが。

北島　実際に体験したことに対する答えなんですよ。それを浪ちゃんの言葉で言ったらどうなるかみたいなことを考えて書いてるんですけどね。健常者に対してはもちろん、ボランティアに対してもメッセージを発しているというか。

こういう自己主張の仕方もある

― 北島さん御自身は、つめ隊のビデオが出たということに対してどうお考えですか。

北島　いや、単純に自分の詩に曲がついて嬉しいですよ。で、浪ちゃんが踊ってたりするという（笑）。そういう意味での感動はありますよ（笑）。ただやっぱり、今後ももちろん詩は書きますけれども、もっと浪ちゃんの思いとリンクできるように、まあ「障害者年金ブルース」はぴったりはまってると思うんですけど、その前のものは僕の思いの方が強くて決してリンクしてないんですよ。あとは、最終的には障害者のみのバンドになるのが理想だと思うので、今回の曲を聴いて「俺もやりたい」っていう人が出てくればと思うんですよね。こういう自己表現の仕方もある、やりたいことをやってもいいんだっていうことを分かってもらえれば。つめ隊なんかには触発される人もいると思うんですよね。

― だと嬉しいんですけど。

北島　実際、障害者の歌う歌なんて決まりきってて、十年、二十年前から変わってないですからね。「車椅子を押して、雨が降って大変だ」とか、そんな歌ばっかりですからね。

― ビデオの撮影で、山の手線で浪貝くんを撮ったときの乗客の反応が…。

北島　あんなにぎゃーぎゃー騒いだら私だって見てみぬ振りをしますけどね（笑）。竹下通りで、カメラで撮ってた外人がいましたよね。普通撮りませんよね。あんなもん撮って何しようっていうんだろう（笑）。

障害者の存在を強くアピール

― ドッグレッグス（障害者プロレスの団体名）を旗揚げされた直接のきっかけは。

北島　初めは全然こういうグループじゃなかったんですよね。障害を持った人と健常者が一緒に交流できるような、勉強会をしたりですね、一緒に飯食べたり、どこか遊びにいったりとかという、それが中心だったんですよ。それが、各メンバーのキャラクターでいつのまにかこうなって。もともとその時集まったメンバーっていうのが、他のグループで上手くやっていけないような人達の集まりだったんで、他のボランティアグループがやっているようなことをしても、そのとおりには進行しなかったというか。気が付いたらプロレスになっていたという。慎太郎と浪ちゃんが女の子をめぐって喧嘩をしたのがきっかけになって、一番初めはここでやったんですよ。それをみんなで見てて大騒ぎしてたのが、これは面白い、是非人に見てもらおうと。実際、彼らがボランティアの人達にあまりいい印象を持たれてなかったんですよ。金に関してルーズであったり、人に迷惑ばかりかけたりというろくでもない存在だったんで、プロレスをすることによって認めてもらったり、彼ら自身が自信をつけたと。実際、慎太郎なんかは「俺は駄目なやつだ」とか、そんなことばかり言ってて。「プログレッシブ・ボランティア宣言」のオリジナルにはそういう歌詞もあるんです。まあ、そんなことでつけた自信に何の意味があるんだと言われるかも知れないんですが、逆にいえばそのくらい、認められる場所が少なかったと言うことでもあるんです。で、つぎにこのボランティアセンターの二階でやったんですよ。でも観客が五人とか十人とかで、もうボランティアは頼りにならないと。結局そういったものを受け入れようとしないわけだから、ボランティアを相手にしてもしようがない。一般の人にメッセージを伝えようというふうに変わってきたわけです。だから初めから一貫した

マクドナルド
きくや質屋
花屋
北沢川緑道
梅丘通り
教会
小林外科
サミット
小田急 下北沢
南口
東演パラータ

6月5,6日
東演パラータにて
「超障害者オメガポイント」開催！
チケットは
チケットぴあで前売中！
全席指定2,200円！

テーマがあったわけじゃなくて、その時その時にいろんなことにぶつかって、その都度考えるという繰返しなんですよね。やっぱり、決まりきった形で観てる側の健常者が都合のいいようにとれるようなものじゃなくしたい。例えば演劇とか歌とか、障害者が一所懸命やってるのを観て、ああよかったと感動しているのは観ている側の自己満足に過ぎないわけで、それではまったく意味がないと。逆に、観るものを安心させない、障害者の存在を強くアピールするという方法をとりたいということですね。

── 健常者から観て、障害者同士がプロレスでぶつかりあうというのはかなり違和感があるんじゃないかと思うんですね。中には観たくないという人もいるんじゃないかと思うんですが。

北島　ええ。メッセージを伝えたいということでやっているわけですから、観てもらえないと何の意味もなくなってしまうわけで、それはいろいろ工夫しているんですが。例えば障害者同士の戦いというと見た目は衝撃的ですし、試合もハードなんですけど、結局最後は爽やかに終わってしまうんですよ。それではあまりにも毒がないというか、感動して終わりというパターンに陥ってしまいますよね。ですから、どこかに毒をいれるために、必ず一試合くらいは障害者対健常者のカードをいれようと思ってるんですよ。嫌がる人もいるかも知れませんが、あえていれようと。一番理想としてるのは、楽しかったし凄かったけど何か心に引っかかってしまうような、帰る道すがら素直に笑えなかった、でも何か気になっちゃうなあというか。

── 慎太郎くんと北島さんの試合をビデオで拝見したんですが、さすがにあれはちょっと陰惨な感じがしました（笑）。

北島　そうですか。そう言われるんですが、この前見直したらあんまりたいしたことないなと思ったんですが（笑）。

── あそこまで出来るというのは相当な信頼関係がないと。

北島　そこを観て欲しいんですよ。「何で障害者をあんなにボコボコに出来るんだろう」という。それが嫌悪感だけに終わらないようにしたいんですよ。障害者を殴って、観るものに嫌悪感を起こさせるのは簡単なんですが、嫌悪感を通り越したところから「何でそこまで」というクエスチョン、ひょっとしてそれは信頼なのかなってところまで伝われば。実際、障害者も健常者も同じ人間であると口でいうのは簡単なんですよね。じゃ、同じ土俵で何か出来る舞台が用意してあるのかという問題がありますよね。実際はないですから。だったらそういう舞台、まあ、リングですけれども、それを用意しようと。本当に同じ土俵で戦えるのか、それを実践するというか。観たものに何が伝わるか、そこまでは分からないですが。「本当に嫌なものを観た」と思うかも知れないし（笑）。

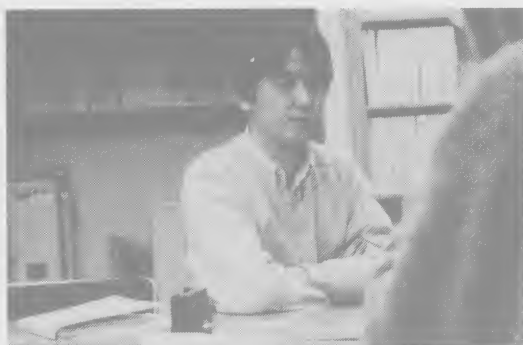
「障害者プロレス」を公共の施設で

── これからの活動予定などを。

北島　六月五・六日、東京・下北沢の東演パラータで第十回の興行『超障害者オメガポイント』を行ないます。チケットぴあで絶賛前売中です。団体の存続がかかっているので是非観に気て欲しい。あと僕個人の考えなんですが、お金をとるのはそれで終わりにしようと思ってるんですよ。今度は公共の施設に乗り込んでいって。今やっている場所は駅からも遠いですし、「障害者プロレス」と謳っておきながら障害者の観れる環境じゃないんですよ。ですから公共の利用しやすい施設でやらせてもらうつもりでいます。そこで無料で、まあ、カンパは集めますけど、無料で興行をやると。断られたら法廷で争います。やっぱりお金をとって一部の人にしか観てもらえないというのは、これはちょっと違うと思うんですよね。ましてこれから大きい会場でやるとなると料金も高くなりますから。そういった意味でも今度は一度無料でやってみようかなと。もともと、市民のために開放している施設はたくさんあるわけですからね。それとは別に後楽園ホール進出というのもありますけど、それはまた別の展開として。ですから、観る人がいろんな意味に取ってくれればいいと思うんですよね。こちら側の持ってる思いがそのままストレートに伝わらなくても。逆に「ひでえことやってるな」っていう人がいないっていうのも不思議なんですよ。やめちまえっていう人が出てこないのが。まあ、本人達がやりたくてやってるわけだから止めようもないんですけど。

── 北島さんの活動というのは、一般の人とボランティアの橋渡しということですか。

北島　そうですね。それはよく言うんですけど、結ぶ鎖と言うかパイプ役になろうと思うんですよ。そういったことをした人達ってあんまりいないんですよね。障害者を知ってる人と知らない人の意識の差があまりにもありすぎるし、同じ人間って言葉一つを取ってみても、その言葉の意味を全然違うふうに捉えてるし。だからそういった意識の差を埋めるような活動を、まあ実際に変えるのはパンクロッカーであり、レスラーなんですけど。

── 今日はどうもありがとうございました。

九三年四月十一日
世田谷ボランティアセンター

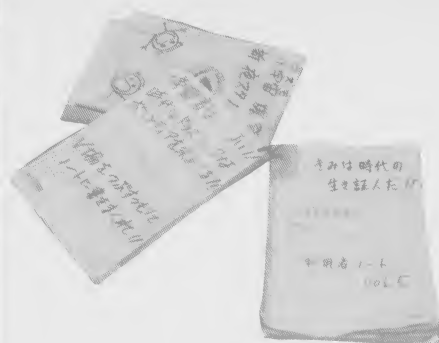
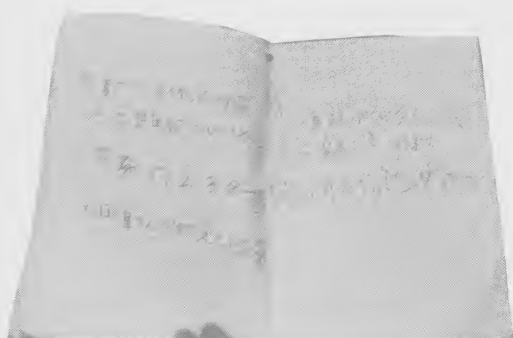
障害者はおまえだ!
浪貝朋幸インタビュー

給料は月八千円

— 普段の生活っていうのは、どんな感じですか。
浪貝　充実してます。
— 仕事は?
浪貝　喫茶店で。
— 自分で探して?
浪貝　いや、紹介で。
— 仕事は結構探した?
浪貝　ああ。
— 今までどんな仕事した?
浪貝　印刷工、機械工。
— 今の収入は?
浪貝　六万。
— それと、歌詞にも出て来る年金が…。
浪貝　七万五千円。
— 印刷工のときはいくらもらってたの?
浪貝　八千円。
— 月に?それじゃやっていけないよね。
浪貝　うん。
— ボランティアセンターにあるノートの、浪ちゃんが初めて登場した時のところを読んだんだけど…。
浪貝　ああ、あれはとんでもないこと書いてる。
— 最初は獣神マグナム浪貝じゃないでしょ、なんだっけ。
浪貝　ロリコンマン(笑)。
— 何年ぐらい前?
浪貝　あれはもう十年位前。ペンネームで。
— その頃に北島さんとか…。
浪貝　いや、まだ。まだ知り合ってない。顔は知ってるけど、今みたいな感じには、全然。
— 今みたいな感じで、北島さんと付き合い出したのは?
浪貝　三年くらい前ですね。
— で、プロレスっていうのは、前から興味があって?
浪貝　もう、中学校から。

プロレス、そして音楽

— プロレスを始めたのは、いつぐらい?
浪貝　二年ぐらい前ですね。
— なんか、慎太郎君とよく喧嘩をしてたと…。
浪貝　喧嘩して、プロレスやろうとしてて…で、北島さんが来て「こりゃあ面白い」って。それで今のようになったんです。
— 最初はどうだった?例えば、知らない人の前でプロレスするとか。
浪貝　何の抵抗もなかった。
— でも、お母さんとかは…。
浪貝　もう反対でした。何やってるんだって。
— それまで運動は?
浪貝　え、ぼちぼち。
— でもプロレスっていうのは、結構本気でやるでしょう。
浪貝　はい。
— ほとんど流血寸前、なんていう試合もあるでしょう?…最初そんなのどうでした?
浪貝　ただ痛いな、っていう(笑)。
— 他の人が見ている前で、試合というパフォーマンスをするのは、快感だった?
浪貝　そうですね。もともと僕は目立ちたがり屋でしたから、そんなに抵抗っていうのはなくて、すんなり入っていけたんですよ。
— プロレスをやって、だんだん話題になっていって、今度は「つめ隊」というバンドが出来て、それは中島君だっけ?もともとの浪ちゃんとの知合いは…。
浪貝　秋谷。芸名はアーシー。アーシー中島。
— 彼に誘われて、音楽やらないかって…。
浪貝　ていうか。最初は「つめ隊」以前の問題で、なんかバンドやりたいねっていうのが、俺とアーシー中島と、あと昔ボランティアやってたヒトミっていうのともう一人、四人で、ちょっとやってたんですよ。それがお流れになっちゃって、それで去年の八月にアーシーのバンドとセッションやってみないかっていうことで、カツブレ(KBB)と知り合ったんです。
— それで世田谷のスタジオかりて練習するように…。
浪貝　たまに。たまにですね。でかいイベントの前。例えばクアトロとか、レコーディングの前とか。
— もともとロックとかパンクには興味があったとか、やりたかった?
浪貝　そうですね。
— 好きなアーティストとかは?
浪貝　矢沢です。
— どんなところが。

▲世田谷ボランティアセンターにて（向かって左はサンボ慎太郎）

▲世田谷ボランティアセンターにある利用者ノート

浪貝　音楽性があって。…一匹狼ですよね矢沢って。

――じゃ、ゆくゆくは矢沢のようになりたいと。

浪貝　いや、そこまでは（笑）、とんでもないっすよ（笑）。アーシー中島のバンドにおんぶにだっこで。いやあ、でも正直言って、アーシー中島のカップレにはすっごい俺、感謝してるんですよ。

――アーシー中島っていうのは、世田谷のボランティアセンターに来てたボランティアの一人？

浪貝　ええ、ドッグレッグスの仲間。

俺とKBBは一心同体

――KBBフィーチャリングつめ隊ということで一年近くやってきて、ここにきていきなり「つめ隊」が注目されて、リードボーカルが浪ちゃんでしょう、やっぱりまわりは浪ちゃん中心のバンドって見ちゃうんだけど、それについては何か…。

浪貝　俺はその点では悲しい。やっぱりカツヲ&ブレーンバスターズと俺は一身同体というか、ギブ&テイクの関係でやってるから…本来の、既成のカツプレを半分以上壊して、その中に俺が入って行く、そこの辺ですごい悲しいっていうか。アーシー中島とかに俺、あやまらないといけない。「本当にゴメン」って。…なんか罪悪感ていうか。俺は何で音楽に関わってきたんだろう。KBBに対してむしばむことないだろうと思って。レコーディングの時、KBBの、スーパーナパームDDTカツヲに聞いたんですよ。悪いかって。「ウチがやりたいんだもん、それでいいじゃん」て言うの。間違ってるよって言われて、俺は決めたの、絶対このレコーディングを成功させようと。…だけど今回「つめ隊」が前面に出てて、ナンかすごい悲しい気がする。KBBに対しては何か、悪いなあーと思って。今日俺、皆にあやまろうと思って、もう一回。すっごい何か、気持ちがわかるんですよ僕も、ね。だけど、史上最強の障害者パンクバンドということで「つめ隊」っていうのが前面に出てますよね。やっぱりみんなでやってて嬉しい反面、その辺で、そういう事があるとすごい悲しいっていうか。自分の力でどこまで出来るか分からないですけど、プロデュース、KBBを。それが一番のお返し！彼等が頑張ってるのスゴイわかるから、なんかしてあげたいって気持があるんですよ。だけど俺が入るとまた「つめ隊」で注目されちゃうから、今度、いっぺん俺、引こうと思って。自分は引いて引いて引いて、それで何か機会があったら一緒にやれたらいいなと俺は思ってるんですよ。

――浪ちゃん自身の音楽活動っていうのは、これからどうするつもり？

浪貝　KBBにお返しって事になるかどうか分からないけど、彼等に詩をあげたい。俺に出来るのはそのくらいだと思うんですよ。

――詩はいくつかあるの？

浪貝　いや。とりあえず五月十八日の『障害者はおまえだ！』ビデオ発売記念ライブ（下北沢SHELTER）が終ってから。五月まで二人三脚でいこうと。

――今度ビデオが出るけど、嬉しい？

浪貝　すごい嬉しい。一介の障害者がここま

胸つきましたよ。もう何やっても恐くないって。

―― 浪ちゃんから見て天願監督はどうでした？

浪貝 すごい、厳しい監督。

―― 厳しかったけど、上がった作品を観てどうだった？

浪貝 ただただ敬服。あの映像。さすが今までそういうのやっただけある。

川西杏にはびっくり

でやったかっていうようなビデオだから。あの内容見たら、すごいですよ。今までビデオで障害者が、水責め、SMやりましたか？それを考えると（笑）、これは絶対…。

―― でも、撮影ってすごく辛かったでしょ。女王様にいじめられたり。

浪貝 あの五時間死にましたよ。ホント。

―― 渋谷の街に放り出されたり、電車の中で叫んだりするシーンは？

浪貝 あれは、電車の中は、一回やったら度胸つけてやるしかないなと、思って、やりましたよ。

―― クアトロのライブ（脱・特殊歌謡祭92）はどうだった？出番を待つ心境とか。

浪貝 暴力温泉芸者が出て、のど自慢やって、ヒデさんが出て、ここまではまだ勝てる！しかし、大御所が出たよ（笑）。川西杏が出たら、一瞬にして会場びっくりしましたけど、「あ、これはマズイ」とか思って（笑）。「これはオレは負けた」と（笑）。ホントに。

―― でもステージに上がったらそんな事考えてないでしょ。

浪貝 度胸つけてやるしかないなと、思って、やりましたよ。

―― 燃えてたもんね、あの時。客の反応とかは？

浪貝 全然分かんなかった。やるしかないなと。

―― あのライブは川西さんとつめ隊が一番話題になってたんだけど、集まった人達が自分のことを観たくて来るんだって分かってた？

浪貝 いや、全然。あの時、客の反応どうでした？

―― 最初はどう反応していいか分からないっていう感じだったけど、結局はみんな盛り上がったよね。浪ちゃんに聞きたいんだけど、あの時結構アジってたでしょ。あれはステージに上がる前から考えてたの？

浪貝 アドリブ。

―― その後、東演パラータでプロレスやったでしょ。あの時、負けて「でもオレには歌がある」って言ったじゃない。あれもアドリブ？

浪貝 アドリブ。

―― 昔から、そういうのは得意だったんだ。

浪貝 そうですね。

―― 天性のパフォーマーだね。

浪貝 いや、天性とまでは、とんでもない。

―― ちょっと聞きにくいんだけど、浪ちゃんは生まれつき障害があるよね。

浪貝 そうです。

―― 今ね、こうやってパフォーマーとしての才能が開花したっていうのは、浪ちゃんに障害があるって事と関係あるのかな。

浪貝 ない。

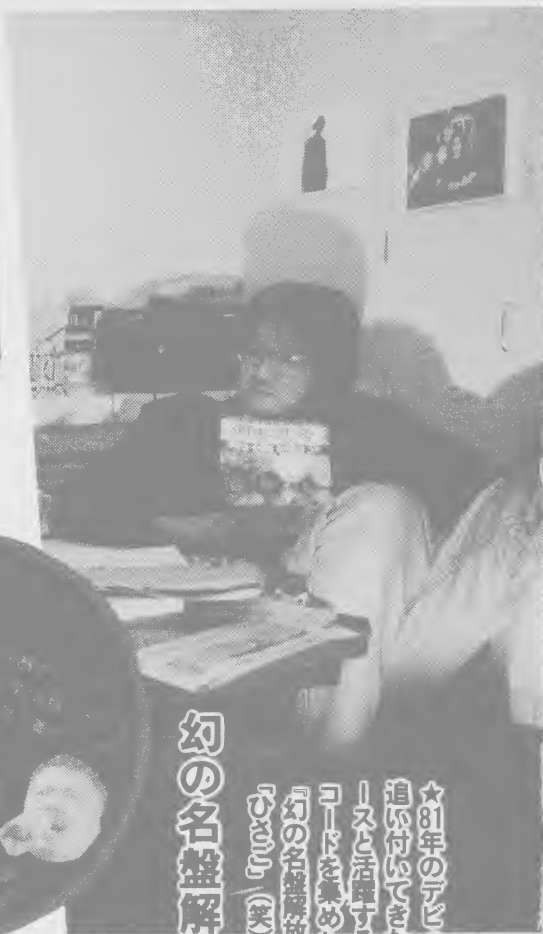
―― 監督とも話したんだけど、このビデオはいわゆる「障害者」を扱ってるんじゃないんだ、浪貝朋幸っていう人間を扱ってるんだと。僕らは別に障害者の気持を代弁してるわけじゃないし、そういう問題をアピールしてるんじゃないって考えてるんだけど。

浪貝 障害があろうがなかろうが、人間なんだから、そういう事関係ないですよ。

―― でもこういう事をやった障害者っていないわけだから、それはある意味で障害者の代表として自分は戦っているっていう意識はあるのかな。

浪貝 ええ、それは、もちろん。

―― 今度のビデオで浪ちゃん自身が訴えたいことは？

浪貝 少しでも、障害者の気持を解って欲しい。見てみぬ振りはもう出来ねえぞ。そういうことです。

★81年のデビューから十余年。90年代に入って漸く時代が追い付いてきたという感がある。特殊漫画家・根本敬の活動は、ここに来て漫画以外にもライブや音楽・ビデオプロデュースと活躍する彼と、今年で結成十周年を迎え、根本敬と共に地道なフィールドワーク（レコードを集めたり、渡韓してイイ顔を撮ったり、親爺のエロ話を聞いたり）を続けてきた『幻の名盤解放同盟』の湯浅学氏に、昨年開催された『ガロ脱特殊歌謡祭92』のビデオ「ひさご」（笑）の発売を記念し、お話を伺った。

幻の名盤解放同盟　根本敬（漫画家）　湯浅学（音楽評論家）

■注）もう一人の同盟員・船橋英雄氏は寝坊のため欠席となった。

★INTRODUCTION

本誌　やっと出来ましたね、「ひさご」（笑）。これで根本プロデュースのビデオが「因果境界線」から2本続いた事になるんですよね。

特事　実は天願（大介）さんが次のビデオ「障害者はお前だ！」のインタビューで、「あれも元を正せば根本さんの仕掛だから」と言ってたから、実質的には3本続くんですよね（笑）。

本誌　さて、肝心の「未来精子ブラジル」、予定ではもう一年も前に発売されているんですけど（笑）、その辺いつ頃になるかといった辺りから。

根本　まず、全国五百人のファンの皆様に心からお詫び申し上げます。今作ってるのが終り次第ケリつけますから。とにかくもう俺はガロでは絶対続きものはやらないんだ。絶対集中力続かないから。飽きちゃううんだもん（笑）。これから時々短いやつをちょこちょこつ、と。描ける時に描くと。勿論高密度の。

★同盟のフィールドワーク三部作

本誌　とりあえず今の仕事というとビデオが終ったでしょ、それからディープコリアが佳境に入ってるでしょ…。

根本　それからペヨトル工房から「ディープ歌謡」というのを出します、これは「ディープ・コリア」の歌謡曲版ですね。それからこれは僕個人の名義ではあるんだけれども、KKベストセラーズから、〝我が男遍歴〟をテーマにした、私の上を通り過ぎて行った男たち…まぁ親爺ですね。尹（ゆん）さん（ビデオ「因果境界線」でおなじみ）との往復書簡も載るし、例の初体験告白話は観音開きでバックには昭和三十年代の温泉エロ写真をあしらって（笑）。

本誌　それはタイトルは？

根本　まだカバー作ってないんで、カバー作る時にタイトルも決めよう、と思ってるんですけどね。ただいわゆるコンセプトというのはありまして、「ディープ・コリア」も「ディープ歌謡」もKKベストセラーズも、この3つを合わせて三部作…何の三部作か分からないけどまぁ同盟のフィールドワーク三部作と言いますかね。要するに韓国と、廃盤と、あと親爺。

湯浅　全部同じモンだけどね。

根本　うん。カバーも同じフォーマットで（笑）。

本誌　で全部版元が違うという…素晴らしい。

★吉田佐吉の原型

根本　KKのやつは一応僕個人の事として話はしてるんだけれども、どうしても半分以上は同盟のフィールドワークと重なってくるんだけれどもね。で、どうして自分が吉田佐吉みたいな下品なそういう爺ィに惹かれるかというのを書いてて分かったのはね、やっぱり小学校の時にそういう爺ィがいたんですよ、禿げて太ってて東北訛りで。でそいつが暴力で学校を牛耳ってたの。

湯浅　爺ィに牛耳られる学校って何なんだよ（笑）。

根本　よその学校を放校になって、行くあてがなくて引き取ったんですよウチの学校に。

信じがたいことが学校で長い間、続いていた。授業中に競馬場へ出かける。朝から酒を飲む。千鳥足で家庭を訪問し、カネを借りる。同僚を刃物で脅す。女生徒の胸にさわる……。

東京・鷹番小学校
暴力教師に支配された
この不気味な教育環境

■吉田佐吉の原型の爺ィを報道した当時の『週刊朝日』。

本誌 引き取った（笑）。
根本 そう。で最初はおとなしく用務員みたいな事やってたんですよね。担任も持たずに庭仕事やってたりして。そいつがやがて暴力で学校を乗っ取るんですよ。
本誌 恐怖政治を。影の校長。
根本 そう。しかも腕力も強いんだけどナイフも、包丁とかもいつも持ってて。職員室で暴れるんだよ。いつも酒呑んでて。で理科室の冷蔵庫なんてそいつのビール冷やしてあんの（笑）。で今日はいいレースがあるからっていうと、他の教師に授業委せて行っちゃうの、競馬に。あと生徒に俺のコネでいい中学校入れてやるとか言って父兄のとこ回って金借りたりという。
本誌 詐欺まがいの事を。
湯浅 詐欺まがいじゃないよ、詐欺だよ。
根本 最終的に「週刊朝日」なんかにもスッパ抜かれたりしてちょっとした社会問題になったんですけどね。その記事も公開するんです。それが吉田佐吉の原型ですね。で、その後大学時代に会った、体の不自由な婆ァを手ごめにしたやつとかね、尹さんとか…あと超能力演歌歌手（笑）。
湯浅 鯖髭だっけ?
根本 鯖髭（笑）。で最終的には勝新に行き着く訳ですけどね。その辺の件をね。
本誌 じゃあそれらを読めば過去の親爺遍歴が全て解る、と。

根本 まあ…でもそりゃあ読む人間の素質とか素養というものがね。
本誌 読み手を選ぶ!!
湯浅 ああそれはあるねぇ。だって「スナッキーで踊ろう」面白いじゃんってノリで一緒にフィールドワーク着いて来たって途中で帰っちゃう人っているもんねぇ。
根本 この辺の事って意味のあるなし考え出しちゃうと駄目なんだよね。
本誌 そういう意味じゃ昨年の、この「ひさご」に入っている「脱特殊歌謡祭」のオープニングはそういう素質を試したようなモンですよね。
根本 そうですねぇ。あれが一番長かったから。暴力温泉芸者の。45分間はやった。
湯浅 あれでのど自慢のオバサン一人帰っちゃったんだよね。
本誌 歌わずして、ねぇ。もう番号札から何から渡しちゃってるのにあのオープニング見て帰っちゃった（笑）。あれはちょっと試練に耐えられなかった、という。
根本 まぁそれ以前の問題もありましたけどね。

★人間は皆後付けだ

本誌 ガロ1月号でも誌上ライブで紹介しましたし、詳しい内容はビデオを観ていただくということで。でまぁその前の問題として、このタイトルなんですが、（笑）…なぜ「ひさご」なんですかねぇ、ホントにもう。
根本 うーんと…まず、何でも良かった。
本誌 ええっ!?
根本 だから（笑）、結局最終的には、「沙麗人（シャレード）」というのと「ひさご」というのが争ったんですけどね。
本誌 シャレードってどっかのスナックみたいな（笑）。
根本 そうそう。すんごくセンスのないスナックの名前によくあるやつね。それか「ひさご」。結局両方とも呑み屋の名前なんですけどね。「亀ノ頭のスープ」の冒頭に入っている「21世紀の精子ン異常者」で、吉田佐吉が「オラ、宇宙人に連れさられただ」っていう惑星の名前が「ひさご」なんですよね。でもそれは瓢箪の意味でもあるんだよな。だから瓢箪から駒という言葉にも結び付けられるんじゃないかな、という。こじつけですよね。
本誌 後付けですね。
根本 そう、後付けで（笑）。でもさあ、結局世の中って後付けなんだよね、何でも。今「現代詩手帖」の増刊で寺山修司特集が出てるけど、それに色んな裏話が載ってて、それ見ると寺山修司でさえあの演劇理論は後付けだったと（笑）。ましてや我々なんかねぇ。
湯浅 まあ人間元々後付けで産まれてくるんだよ。
根本 そうなんですよ。
湯浅 お父さんとお母さんの後付けを我々がしているんですよ。
本誌 男か女かも仕込む時にゃ分からないからね。
湯浅 ある目的を持って産まれてこさせられた子供なんていないからね。

★ブルーウッズレーベルとは…

本誌 あと今後のいろいろな活動の事なんですが、ワガ青林堂からついにCDをリリースしてしまうという計画がありますね。
根本 そう、「ブルーウッズ」レーベルね。
本誌 最初その名前聞いた時どこのインディーズだっけ、と思ってよく考えたら青林堂そのまんまじゃねぇか（笑）、と。
根本 青林堂のレーベル作るにゃ一番ダサい名前がいいんじゃないかと思ってね。俺が勝手に言ったんだけれども誰も積極的に反対意見言わなかったからそれに固まった訳なんだけどね。
湯浅 本当は「ブルーフォレスト」なんだけどね。
根本 でもそれをさ、「林」を木が二本並んでるからウッズにした方がさあ、馬鹿じゃないですか（笑）。ダサいじゃないですか。やっぱり青林堂ってのは格好良くなろうと思っちゃいけないんだよ。洗練されようと思うと本当に天が怒って簡単に潰しちゃいますよ。
本誌 じゃああの材木屋の二階にいる間は安泰ですね。洗練されようがないから（笑）。

THE MAN NEVER GIVE UP
Katsu Shintaroh

勝プロ倒産の82年に放った、勝流AORの超名盤。毛穴からメスカリンを放つ男のいい湯加減唱法に一度ハマれば時間は止まる。もう死ぬのなんて怖くない。　（P-VINE レコードより発売中）

■BLUE WOODSブルーウッズレーベルリリース予定CD（架空ジャケット）

■蛭子能収『青林堂』

生まれつき、風景がねじ曲って見えていたという、先天性アシッド・シンガー待望のデビューアルバム。蝿とUFOの区別がつかない男の自慢の喉にラリってくれたまえ。豪華演奏陣にはボアダムズも参加（予定）。もうじき本当に作ります。

■川西杏『差別』

重い問題をキャッチーな曲で。差別問題のエンターティメント化、遂に成る。収録曲…軍事境界線・板門店・俺だって金嬉老・幻の大本営・朝鮮人の肉 etc。

根本　そうですね。

本誌　あそこでスーツ着て仕事しようがないですからねぇ。一番間抜けになっちゃうから（一同笑）。

湯浅　社員の発言とは思えないなぁ（笑）。

根本　そんな事やって出社したら帰りに絶対事故に合うよ。いや、本当に。

湯浅　死ぬか消えるかだよね。

根本　お岩が祟ってくるよ（笑）。やっぱり「材木屋の二階」だからお岩も寄って来ないんだよ。

本誌　…でまぁそういうレーベル名にして。

根本　でどういう人達をリリースしていくかを条件付けをすると、「名誉廃盤」なんだよね。新譜なのに既に廃盤というかさあ（笑）。

湯浅　これも後付けなんですよ。いや先付けの後付けか。

本誌　後付けのための先付けか。

湯浅　そうそうそう（笑）。

根本　あ、でも今の言い方だと誤解を招くからフォローしといた方がいいな。

湯浅　だから、廃盤的な見地というのは言い替えれば本質をついてるという事だから。例えば川西（杏）さんとかといのは、世間から見れば廃盤に見えるけれども、実際は本質論を追求してる人ですから。本質を突くと世間から傍流に追いやられちゃう人って必ずいるじゃないですか。ボアダムスなんかでもそうだと思うんですけど。そういう人を正当な位置に我々がちゃんと捉え直してあげたいというか、座布団を用意して座らせてあげたい、というかね。もう本当に尊敬してますからね、川西さんの場合。

本誌　そういう意味でいくとやはり第一弾になるのは川西杏さんという事に。

根本　在日朝鮮人にまつわる差別問題をテーマにしたアルバムで、その名もそのまま「差別」。で、次に予定されるのは昔から言っている蛭子能収ファーストアルバム「青林堂」ね。この二人のアーティストが揃えばね、後はもう向こうから来ると思うんだよな（笑）。

湯浅　そうなんだよね。連絡が来るんだよ、何故か。

根本　何か「ああやっぱりブルーウッズしかねぇな」っていうやつが来るんだよな（笑）。

本誌　向こうから来るというのは大事な事ですよね。

湯浅　呼んでないんだけどね。もう用意されてるんですよ。それに沿ってただやってるだけだよね。

根本　うん。で要するにそうやって今まで来た人達を順を追って並べてみたのが今度KKベストセラーズから出る僕の本なんですけどね。

湯浅　総論ばっかりやってても解らないから、たまには各論もやらないとね。総論もいいんですよ、いいんだけど、宣伝の方向に行く総論ってあるじゃない。要するに「何々は何々だ」というテーゼを与えるんだけれども、それを曖昧にするために、本質から遠ざけるために総論をするやつがいけないんで。

根本　それって広告業界の世界なんだ、一番顕著なのが。この前、金に目が眩んでコピー文書いた時、つくづく思ったね。

湯浅　キャッチコピーとかそういうのは駄目ですよね。総論ったって本当言ったら長いもん。それを一言で言おうとすると「ひさご」になっちゃうんですよ。（一同笑）

根本　なら立派なもんだけど（笑）。

★幻の名盤解放同盟十年間の活動が結実

本誌　とまぁ、その「ひさご」も完成した事だし、本誌では「エリツィン…」も一応完結したという事で、このビデオ発売を機に根本さん初め幻の名盤解放同盟も含めた現在の活動や今後の予定なども聞ければ、またついてはその活動を見守るファンのテキストになればという事で今回企画したんですけど…ってこれも後付けですけどね。

湯浅　だからP－VINEから出している幻の名盤解放歌集とかね。そういうのは総合的につき合ってくれる人がいるからこちらも助かるよね。心強い。

根本　我々もまあ十年間やってきて、ようやくこういう形で結実しましたからねぇ。青林堂とP－VINEとツアイト特事部のお蔭で。だってまさか、尹（ゆん）さんの初体験告白がビデオ（「因果境界線」）化されるとはね。

湯浅　同盟結成ちょうど十年目なんですよ。

根本　うまいタイミングで全てがシンクロしてねぇ。

本誌　惑星直列。

湯浅　「廃盤水滸伝」と言われているという。

本誌　最初は自販機本の廃盤星取り表とかやってましたよね。

根本　もう地道にやってましたよ。たまに何度かレコード会社でそういうのを集めて出す、という企画があがったんですけどもね。今考えると「人間万事塞翁が馬」じゃないですけど、その時出なくて良かったと思いますよ。

湯浅　そうなんだよね。

根本　やっぱりこっちが妥協した形で出してもしょうがないんだもんこういうのは。要するに大便とか反吐とかと一緒だから小刻みに出してもしょうがないんだよ。溜ったものは一気に宿便まで出さないとさあ、綺麗にならないんだよ。

本誌　漫画から文章からビデオからCDから全部一気にここに収斂された感じですもんねぇ。

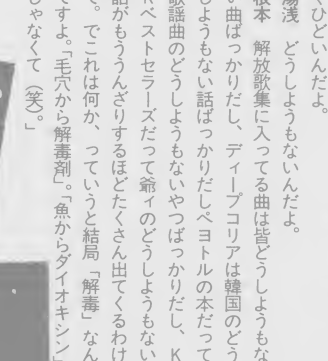
根本　ええ。で全部に言える事はね、共通してる事ってのは皆「ひどい」って事なんですよ。すごくひどいんだよ。

湯浅　どうしようもないんだよ。

根本　解放歌集に入ってる曲は皆どうしようもない曲ばっかりだし、ディープコリアは韓国のどうしようもない話ばっかりだしペヨトルの本だって歌謡曲のどうしようもないやつばっかりだし、KKベストセラーズだって爺ィのどうしようもない話がもううんざりするほどたくさん出てくるわけで。でこれは何か、っていうと結局「解毒」なんですよ。「毛穴から解毒剤」。「魚からダイオキシン」じゃなくて（笑）。」

幻の名盤解放歌集・
BMGビクター（旧RCA）篇
■資本論のブルース

幻の名盤解放歌集・
ポリドール篇　■お願い入れて

マリア四郎がヌード歌手として蘇った、みやざきみきお「海猫」は四畳半に飛び散った精液とK.クリムゾンの「エピタフ」の区別がつかなくなるほどの名曲。来世はもっと不幸だってかまわない！

P-VINEレコード(03-3460-8611)

※尚ジャケットデザインは『ガロ』表紙で御馴染みの原口健一郎氏。

■幻の名盤解放同盟の文章担当(?)
湯浅学氏

連れてかれた所が「ヒサゴ」ッて星だった
初次見面
ようこそ
WELL COME

■亀の頭のスープ（マガジンハウス刊）より
惑星「ひさご」

★「解毒」とは何か

湯浅　解毒つってもね、自覚がある人、てのがいるわけでしょ。「あ、俺は今毒に犯されてる、苦しいな」ってのはまだいい訳で、でも無意識に色々「澱（おり）」って溜っていくモンじゃないですか。それを、

無意識の領域に踏み込んで解毒するってのは、やっぱりかなり荒療治が必要な訳でしょ、単純に考えて。それをどうやって解毒したらいいかって解る人がまだいない訳。それを誰かがやるのか知らないけどさ、結局解毒で出てきた物を正面切って受け止めて「ああ毒が出てきたな」って思える人はまだいいんですけど、そうじゃないやつが世の中の中枢にいるというか…まあ八割がたそうだよね。だから解毒されてるのに解毒だと解らない人がいるから、そうなるとくどくならざるを得ないよね。要するにほら、前も言ったけど同盟の活動ってのは戦いだから。戦って行かなきゃいけないって、何と戦うのか解らない時もある訳ですよ（笑）。「俺何やってんだろ」と思う時もあるんだけど、後付けで行くとあれは戦いだった、と思うんだよね。

根本　下らねぇレコード山ほど買って、10万位使い果した時なんか痛切に感じるよね。

湯浅　だから「毒」を作ってるやつがいるんだね。でもその毒が何のためにあるのか、という事を我々は追求してる訳。誰も知らないんだけどやっぱり毒は出さなきゃいけない、というような意識がある、と。その両方に作用して行くためには、下らねぇレコード買いに行ったり、土方のエロ話聞かされたりして、やっぱり不断の努力をして行かなきゃいけない、というような事なんでしょうね、多分。そういう「アクの強いもの」って言うけども、アクが本当は本質かも知れない訳だよね。人間は元々アクかも知れない訳で。そうなると単純に面白がるとか、そういう次元ではどうしても言えなくなっちゃうんだよな。

本誌　やるからにはやはり。

湯浅　だってあれだよ、親爺とか親爺だってさ、本当につまんないものを山のように聞いてる訳ですよ。廃盤の在庫は二万枚ある事になってるんですけど（笑）、そのうちの一万九千枚はつまんないんですよ。それでも「つまんない」というのは言えなくなってるのね。「つまんなくない」の、もう。つまんないものが必要なんですよ。必要かどうかというのは我々だけしか判断できなくて、世の中で言う「要・不要」というのとは全然違う事になっちゃうんですよね。そのズレを埋めていく作業が「解毒」なんですよ。

本誌　なるほど。

湯浅　健康法で導引術ってあるでしょ。あの本とか読んでるとさ、胃潰瘍の人が導引術やるとさ、もうとめどもなくうんこが一杯出て、それから治るんだってさ。だから例えばインポの人が導引術して立つようになるとさ、精子が一杯こうブァーッ!!と出てくるんじゃない（笑）。

本誌　今までインポであったがゆえに（笑）…。

湯浅　ゆえに、物凄い沢山出ると思うんだよな。多分。

根本　俺、今度から解毒漫画家って言おうかな。

湯浅　よく労働者が夜勤明けに「スッキリしに行こうぜ」って早朝トルコとか行くじゃない、あれやっぱりスッキリするためには出さなきゃいけないんじゃないかね。

本誌　飲尿でも「好転反応」っていって、まぁ漢方にあるらしいですけど、治る直前に悪い部分がバッ、と噴出して、あと綺麗に治っていくという。皮膚病でも内臓病でも。

湯浅　解毒で死んじゃう人ってのもいるだろうね、きっとね。それも戦いだからね。だからこの旧版の「ディープ・コリア」だってさ、とある本屋さんじゃ置いてくれなかったからな。表紙見て。

本誌　それは本屋さんが耐え切れなかったんでしょうね。

湯浅　そう。これは書店内の解毒作用がある訳でしょ。

根本　まぁ残念ながら今度の青林堂の版は事情がありましてリバーシブルになりましたが（笑）。皆さん買ったらすぐ裏返して下さい（笑）。

本誌　ここでハッキリ言いたいんですが、担当編集者として私の意向ではない、という事で。私は解毒作用の方を支持するからこそ担当してるんで（笑）。これだけは明言しておきます。…まぁその書店というのは自ら解毒剤を放棄した訳ですね。愚かな。

湯浅　だから解毒作用を止めると戦争が起きたり暴動が起こったりするわけですよ。

本誌　病気になったりね。自浄作用には限界がありますから。

根本　そうだよ、この間CBSドキュメントでイギリスの麻薬事情やってたんだけどさあ、イギリスって今AIDSのあれもあるから、もう治らないって認めた中毒者には処方箋があれば医者とか薬局がヘロインとかコカインの純度百%のやつを処方してくれんの。それで麻薬に纏わるあらゆる犯罪が減って町が平和になったっていうんだよ。

本誌　ポルノ解禁後の性犯罪の激減みたいですね。あれも直後は好転反応があって増加してから下がったという。

湯浅　そうそう。それを認めないのはよくないよね。解毒してる最中を容認するぐらいじゃないと駄目ですね。

▶ナユタ出版版・元祖『ディープ・コリア』。このアクの強いカバーこそが解毒剤の解毒剤たる所以であった。今回青林堂から発売される『定本…』はこのカバーをさらにパワーアップしてフ抜けた世の中への解毒作用を高め…るハズ、だったが……

根本敬・幻の名盤解放同盟<今後の主な活動予定>

■イベント関係
6月17日～29日「幻の名盤解放同盟展」・於ギャラリーARTWAD'S(03-3770-1929)
同盟の収集した自主制作歌謡や韓国ロックのれこーどを勝手に編集したテープ等も密売。

■CD関係
4月25日・幻の名盤解放歌集・ポリドール篇「お願い入れて」
勝新太郎「THE MAN NEVER GIVE UP」
5月25日・幻の名盤解放歌集・BMGビクター(旧RCA)篇「資本論のブルース」
6月25日　川西杏「差別」(ブルーウッズレーベル第1弾)
以上発売元はP-VINEレコード(03-3460-8611)

■本(活字関係)
「定本ディープコリア」352P、青林堂刊・¥1500・同盟共著(編集、版下制作)
「ディープ歌謡」280P、ベヨトル工房刊・¥2000?・同盟共著(編集、版下制作)
「我がオトコ遍歴」←全くの仮題280P、KKベストセラーズ刊・¥1200?・根本敬著
※順次発表。以上、いかなる事があっても6月17日の同盟展までには全て揃う。

■本(漫画関係)
「未来精子ブラジル」作画・根本敬・青林堂刊
「お岩」作画・お岩(根本敬+マディ上原)・青林堂刊(完全限定版)
「お岩」に関しては、完全1000部限定版につき、書店での販売は致しません。全て青林堂に直接お申込いただく形になります。詳しい入手方法は本誌広告を参照下さい。

※その後もCD、ビデオ、漫画に好企画目白押し!
※早稲田に開店の噂のある「ガロショップ」にも同盟コーナー常設予定。

★今後同盟はどこへ行くのか

本誌　まあ十年間の地道な活動によって、ようやくわずかながら世間にも同盟の活動を容認する部分が出てきたという…

湯浅　これも偶然ですけどね。…という事は必然か。同盟は偶然を認めないからね。

根本　でも何か超常的な天の意志とかをあてにしてアレすると天に裏切られますからね。気をつけないと。天の意志ってのは常に見て見ぬふりをしながらうまく接していかないと。最後に自分の足元を掬われますからねぇ。超能力者とか霊能力者で幸福になった人はいませんから。

特事　同盟が十年間地道な活動を続けてきた結果、つまり聴き続けてきた廃盤が「解放歌集」になり、見続けてきたライブが「ひさご」になり渡り続けてきた韓国が「ディープ・コリア」になり…となると読者としては今後同盟はどこへ行くのか、というところに興味があるのでは、と思うんですが。

湯浅　…どこも行かないんじゃない。

根本　俺達のやってる事って双六みたいなところがあってさ(笑)。

一同　振出しに戻る!!(笑)

根本　もしかしたら今見えてる世界は幻かもしれないんだよ。だからサイの出た目によっちゃすぐ振出しに戻るかもしれないんだよな(笑)。いるじゃない。一から十まで、何度も何度も説明しても、また一から尋いてくる奴。しかもそんな事を十年でも二十年でも繰り返す奴。そんな奴ともつき合わなきゃならない以上、そういう覚悟は必要だな。

湯浅　でも色々教えられるよね。

根本　やっぱりバランスのいい人間よりはバランスの崩れたやつの方が良し悪しは別にして教わる所は大きいね、絶対に。

湯浅　バランスの崩れたやつが洗練を求めてやった事、ってのも凄く教えられるよね。これとかさあ(一同爆笑)。

本誌　これ「柴犬健康法」実践してますよねぇ(笑)。(本誌92年10月号「特殊漫画博覧会」参照)

▼韓国での大洪水の報道が載った『週刊韓国』。御覧の通り大災害である。人も家も犬も水びたしだ。死者も多数出た。繰り返すが、本当に大災害だったのだ。んで、この表紙を見て欲しい。

髪はキッチリと櫛を通した七三分け、表情には笑みさえ浮かぶ。その姿勢はご存知『柴犬健康法』を体得しているかのような見事な姿勢だ。ちなみに上の週刊誌の表紙の桶から下を隠すと、露天風呂の映像と何ら変らない事に気付くであろう。

湯浅　これ下半身水に埋もれてるけどさあ、絶対股開いてフリチンだよね。

本誌　大災害のレポート写真なのにここまでハッキリヤラセってのも珍しいですねえ(笑)。

湯浅　この顔つきとか教えられるよなぁ。泥水も温泉も区別ねぇもんな。…で今後の同盟の活動ったって別に…分かんねぇんだよな。だから計画ったってフィールドワークが続く、とかねえ。

本誌　まあ読者の皆さんが目を話さずに見守って下されば。ガロでは出来る限りフォローしたいと思いますんで。それじゃ、「ディープ・コリア」の追込み、続けてお願いします(笑)。

■収　録…1993年4月12日
ツアイト特殊事業部にて
■聞き手…本誌/白取千夏雄(ガロ)
特事/小鷹利光(ツアイト)
■文　責…ガロ編集部

■柴犬健康法。ガロ92年10月号「特殊漫画博覧会」参照

《実技》
まず、受講生の皆さん裸になり、胸を張って、四つ脚で大地に立って下さい。(図1)
裸になる事は、肛門の通気を助け、健康を誘います。四肢の掌球(足裏)をバランス良く大地にあてる事は、毛細血管の活性化に繋がり、脳をも刺激し、「気」の循環を促進する訳であります。

◀写真2

廣瀬英求　特殊草加漫画大学体育学部柴犬健康学研究所助手(ポンチャッカー)▶

月刊 両面特事壁新聞

A面 創刊号

the wall press of a special enterprise

発行：青林堂内特殊事業部

主筆：吉野達哉

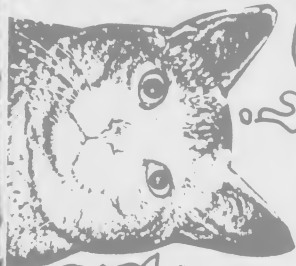
yoshino tatsuya

宮内庁御用 特事

口上

まあ、「特事壁新聞」などといってはいるが、実は、今回発売のガロビデオ「ひさご」について、レポートを書いてくれ！と言う、ただそれだけの事だったんですが、青林堂の犬人間小鷹氏に
私「半ページぐらいでいいの？」
と聞くと
小鷹氏「い～え、見開き2ページで～す。」
私「じゃあ壁新聞みたいのがいいねえ」
小鷹「そうして、そうして。」
ということで作業を始めたんだけど、結局見開き不可能となり、このような「両面特事壁新聞」（A面・B面）という事になっちゃったんであります。
あっ、そうそう、今月一回だけです。このページ。

① ここからよんで。

それで、私が何者かと言う事はプロフィールを参考してもらうとして、まずA面では青林堂内特殊事業部（通称：特事）とは、なんじゃらほいということなんだわ。私もよくわからんけど、最初は久住氏から電話があって

特集● WHAT'S 特事？

特殊事業部って何なんだよ？

②
久住「あのさ～、青林堂がビデオとか作りたっがってんだけど吉野君、どおお手伝ってみる気ない？」
（私と久住氏とは・ダンドリくん HE－SO・それから「かまいたち」等の傑作ビデオを作った仲だ。）
私「そりゃ面白そうじゃない！ ぜひ混ぜてほしいもんだ。だけど制作費とか大丈夫？」
久住「あっ、それならバッチリ。 もう、お金の心配はゼンゼンナシ！」
この時、私の気持ちは渋滞の環状８号からガラガラの第三京浜であったことは言うまでもない。
後日、ビデオ制作について青林堂社長　山中氏と会った時、社長はキッパリ言った
社長「ビデオは作りたいんやけど、いかにお金かけないで作るかやねぇ。どやろ？」
この時、私の気持ちは快晴の国道１４１号から暗闇の伊豆長九朗林道（未舗装）であったことは言うまでもない、ような気がする。

そして、とりあえず作ったのが、ガロビデオ第１弾「テレグラムガロ」なんだけどとにかく驚くなかれ総スタッフ人数、約１名！何から何まで、とにかく１人でやりきるという、雲水の修業の様な作業に入ったのでありますよ。まあ、やっとのことで半年後に、発売までこぎつくんだけどさ。で、そのあと「テレグラムガロ」売る為にガロの作家（エビスさん、みうらさん、久住さん、そして根本さん）と、京都・大阪の大プロモーションツアー（ほとんどドサ回り）を敢行するわけだ。この時は、私もベース担いで参加したけどビデオ売る為に漫画家とツアーするなんてバカだよなぁ。ロックバンドのツアービデオは作ったことあるけどさぁ。

で、俺（急に俺になるけど）は、秘そかに心に決めて腹括ったわけだ。
それはこういうことなんだ。
サブカルチャーだのアンダーグランドだの訳のわかんねえ絵に描いた餅みてえな事言ってんじゃねぇ！！ガロビデオは

産地直産型家内制手工業ビデオ

を目指す。なおかつ「カッコイイ」と言われる事への、圧倒的な拒絶意識に重きを置く。
そいで手塚さんにお願いして「テレグラムガロ」に、このマークを入れてもらった。①

ケムンパスじゃないでやんす
① 手作りマーク GARO hand-made VIDEO ガロビデオ

で、実はこの時期に、ガロビデオ第２弾「因果境界線」の制作に入ってて、こっちは制作スッタフ約２名（俺と根本氏）。編集なんか総て２人でやりきったから。

左上へ。③

③ ここから
それで根本さんと、ぎょうざかなんか食ってるときに、俺たちの作業と言うのはガロの中でも特殊な事やってる様な気がする、という話になった。んじゃ、ガロの中で、まあ他の人達に御迷惑をかけない、と言う意味もこめて新たな事業部をデッチ上げよう、ということで出来たのが

青林堂内特殊事業部
（通称：特事）
ということなんですわ。

B面へゆけ。

知っててよかった!!

とくしゅ 特殊の[な] special; unique; particular; peculiar. ‖特殊学校 a school for the handicapped. 特殊技能 a special skill. 特殊教育 education for the handicapped.

吉野達哉プロフィール

五八年、東京・新宿生まれ。某放送学校CMコース卒業。泉谷しげる制作のビデオ「デス・パウダー」、ビデオクリップ「野性のバラッド」に撮影参加。以後ザ・プライベーツ、かまいたち、グラスバレー、アースシェーカー、ザ・コークス、マインドゲームス等、多数のビデオクリップの監督をするかたわら、久住昌之氏と「He－So」「ダンドリ君」等も制作。また「青林オールスターズ」のベーシストでもある。「テレグラムガロ」を皮切りに以後全てのガロビデオになしくずし状態で参加。現在、強力な貧乏神にとりつかれ悪戦苦闘中。「特事」顧問。温泉ファン。

映像制作のご用命をお待ちしております。
吉野屋映像本舗
all about video making

月刊 両面特壁新聞

the wall press of special enterprise

創刊号 B面

発行：青林堂内特殊事業部
主筆：吉野達哉
yoshino tatsuya

宮内庁御用 特事

やっと4／25発売!! 俺の誕生日

特集 ガロビデオ第3弾 ガロ脱特殊歌謡祭 ひさご HI SA GO

根本敬プレゼンツ

ひさご出演者（因業者）

川西杏

田所秀秋歌謡ショー

のど自慢大会

松山ひろしさん

暴力温泉芸者

大博士

佐野史郎

KBBフィーチャリング・つめ隊

蛭子能収＆青林オールスターズ

ハイテクノロジースーサイド

COLOR ¥3600 VHS

順路

KOJO 口上 多数の誤字、脱字 お許し下され。

「両面特壁新聞」A面から引き続き読んでくれてる人どうも有り難う。
B面から先に読んでる人はA面から先に読んだ方が、好いと思うよ。多分。
で、4月25日に、ガロビデオ第3弾「脱・特殊歌謡祭：ひさご」が発売になりました。
これは「因果境界線」に続く、特事が自信を持ってお勧めするものであります。

根本敬の脳味噌を，ブラウン管の中で具体化してゆく、という作業は僕にとって、なかなかに楽しいことではある。「因果境界線」（監修：根本敬　監督：吉野達哉）は、感性のリトマス試験紙的ビデオソフトだったのかもしれないね。で　これが売れてるらしい。そして、ダメ押しの如く「ひさご」だもんねぇ（だいたいこのタイトル考えるのに一周間もかかったんだぜぇ）。そいで、内容については本誌でも取り上げてるのでいいとしてビデオ監督としてなにを考えていたかというと、まあ、ちょいとかたいんだけど・・・・・

『ひさご』的、標準（スタンダード）の仮設。ということ

例えば、平面を3Dでみる（ステレオグラム）だっけ。流行ってんじゃん。つまりさ、人間の目というのは、素晴らしいオートフォウカスで、とにかく見たとこに、すぐピントが合う。いやでも。これは凄いんだけど、反面つまらない事でもあるわけだ。で、例のステレオグラムっていうのも本来、ピントを合わせるべき面より、ちょいと遠く（平行法）や、ちょびっと近く（交差法）にピントを会わすと，あら不思議、ドオーンという感じで、立体物が見えてくるんですねぇ。だけどこの脳味噌のオートフォウカスのロックを、外せる様になるまでが難義なんですわ。つまりね、自分が、「ここが正しい標準」と信じていた事も、ちょっとそのロックを、はずしてみると、ぜーんぜん、いつもとちがうビックリギョウテンがあるんだ。すぐそこに。

で、いよいよガロビデオ「ひさご」なんだけど。ここに出ている人々は（まあね、ここだけの話身障者のパンクロッカーや、やくざの親分さん、在日朝鮮人のロッカー、ノイズバンドやハードコアバンドだけど）彼らは異常かい？異端かい？毎日、消費されるためだけに生れてくる音楽を、無理矢理、標準的なものであると仮定するなら「ひさご」の中で繰り広げられる世界は、確かにその標準から、ちょいとズレてるかもしれぬ。ま無理もない。

そこでだ！脳味噌内のオートフォウカスロックを、ちょいと解除してごらんなさいな。

ココ

ほらね、「ひさご」の中で展開される世界が、実は、とても身近でリアルでいとおしく感じられるでしょう。
私ら（特事）のスタンダードが見えてきたでございましょうか？
「ひさご」が、私らの『ポピュラーソング・フェスティバル』なんだよ。
だからこそこれは、
脱・特殊（標準）なんですわ。

おわり

Thank you. For your パーティら

知っててよかった!!

ひさご【瓠・匏・瓢】━（古くは「ひさこ」とも）①夕顔・瓢箪（ひょうたん）などの総称。また、特にそれらの果実。なりひさご。《季・秋》②①の実をくりぬいて作った容器。水・酒・穀物などを入れる。③（「杓」「柄杓」）水などをくむ用具。①の実を縦に二つに割って用いたところからいう。後には、木を刳（く）って作り、柄をつけたものなどもいう。ひしゃく。④紋所の名。①にかたどったもの。丸に一つ瓢、抱き瓢、三つ寄せ瓢などがある。

丸に一つ瓢

抱き瓢

ALL PIX BY. T. YOSHINO

左上へ

information

特事では、あなたの励ましの手紙や、御意見をお待ちしております。
青林堂内殊事業部まで、どしどしどうぞ。

all 紙面＆版下 made by　T. YOSHINO

映画「オートバイ少女」手帖

森田童子をなめちゃあか〜んの巻

あがた森魚 [MORIO AGATA]

ここのところずっと東京と北海道を往復している。もちろん映画のロケハン（現場下見）が第一の目的ではあるが、行き来しているうちに、他の仕事や用事も生じてくる。映画の準備が延びてくるとロケハンの費用が出ない場合も生じてくる。そういう時は北海道で仕事をつくる。ＶＨＢ（北海道文化放送局）のキャンペーンテーマソングの詩曲を書き歌を歌った。これなんぞは、僕自身で営業して、獲得した仕事だ。自分で営業するなんて、まずめったにやらないさ。いつかＮＨＫＴＶの「夢千代日記」の時、足かけ4年続いた番組だったけど、最終年のシリーズには、僕もも う一回出たいから、どうかシナリオに安（あん）ちゃん（僕の役）を書き入れて下さいって、脚本の早坂暁さんにたのみ込んだことがあったけど、この20年間、ことそら営業したこともないし、来た仕事を断ったこともあまりない。自然体といえば自然体だが、ポリシーがないといえばポリシーがない。あがた森魚って男はワガママ野郎だと思われているんではないかという妄想にとりつかれているから、仕事をえり好みしたり、勝手な注文を出したりは極力しないようにする。わがままを言えるのは自分のレコードを作る時とステージやる時、あとこうして机に向かう時、それから映画がちゃんと撮影に入ったら監督やってる時……そんな時ぐらいなもんだ。

☆　☆　☆

これまでメディアやマーケットに対する戦略や営業ということを前提として仕事をしてこなかったし、これからもきっとそうだろう。

戦略や営業をすることが不純で、そうでないことがストイックだ、などと言いたいのではない。残念ながら少なくともこの僕は、メディアやマーケットを戦略や営業を第一目的として操作する役割は担っていないだろう。というまでの話だ。

見る人から見ればポリシーが無さげに見え、ある時はやるべきことをやってなさげに見え、またある時はする必要のない仕事をやっているようにも見える。それは客観的にいえばポリシーの無さであり、存在性の欠如ということかもしれない。メディアやマーケットをもっと客観視すべきことかもしれない。（とはいえ人の人格や生き方が易々とは変えられるものかな？）

☆　☆　☆

という、ワケではないが、ここに来てちょっとした小事件が勃発した。勃発なんて言い方はちょっとおおげさだ。何のことはないＮＨＫの衛星第2放送で佐野史郎さんが司会をやっている「もっと過激にパラダイス」からの出演依頼をどうしようかと悩んでいるというまでの話。断ったとはいえ収録は4月下旬で、オンエアは5月5日の予定というから、まだどうなるかはわからん。

とはいえ、何でまた？　である。理由は大きく二つあるが、第一の理由は、映画「オートバイ少女」の撮影にちょうどその頃はいるかもしれないのだ。入っていないとしても、撮影入り直前でそれどころではなくなっているかもしれないからだ。

いや、もっと正直に言いたい。

もしまだ撮影に入らず、スケジュールが空いていたとしても僕はその「もっと過激にパラダイス」（以下略して「カゲ・パラ」）に出ていたりしていい立場なのだろうか、ということなのだ。

もっとも「カゲ・パラ」さんサイドからは去年の暮れからお話をいただいていた。おそらく司会の佐野くんが、ここのところごぶさただからゲストでどうですか、と気を利かして声をかけてくれたのだ。だから今回のキャンセルは「カゲ・パラ」サイドの責任ではなく、僕一個人の事情だ。その時点で4月下旬頃なら撮影も終わっているでしょう、とこっちのスタッフが返事をしてしまったので「カゲ・パラ」さんサイドはこの4月下旬にスケジュールを組んじゃってくれていたというわけだった。

映画さえあがっていたら喜び勇んで出演しているにきまっている。けれども、ここんとこ、会う人ごとに「映画の方どうなっています」と挨拶がわりに言われて「まだシナリオです」と返事する。何度も同じ返事をしなければならないことにイライラする。またあが

たのワガママでとっちらかっているのではないかと勘ぐられるといやだなあと煩悶(はんもん)する。映画を作るってのはそのイライラも仕事のうちらしい。

それを、スタッフやキャストや全国の「オートバイ少女」を心まちにしてくれている方々をさておいて、映画も出来ていないのにわざわざTVに出て「まだシナリオです」と話すのもつまらないし、その代りと言ってはなんですが〜とお歌なんか歌ってお茶を濁すのでは心が晴れない。

例えば明石家さんまになって「あれ冗談でんがんねん」とか笑い倒してみせれるなら、大島渚監督のように自分の映画そっちのけで時事放談でもやってのけれるなら、アイドルのようにかわいらしくしていればいいのならまだしも、あがたのような立場というのは、TVにでなきゃならない理由なんてあまりないのです。あえてあるとすれば、歌いたい歌をおもいっきり歌える時ぐらいだろう。

☆　☆　☆

さて、番組に出るべきか否かを迷うもう一つの大きな理由がある。これは結局第一の理由の心の晴れない原因ともダイレクトに結びつくのである。

週刊ポスト3月19日号のグラビア記事。タイトル「森田童子　昔の写真で出ています」。ちらと見た人もいるかもしれない。もう察しがついたかとはおもうがその記事に音楽評論家、中村俊夫という人が次のようにコメントしている。

「森田童子は、すこし遅れてきた異色中の異色フォーク・シンガーでしたね。当時から自殺を促進するような暗い歌うたってましたね。70年代後半は、ユーミンをはじめとした〝ニューミュージック〟が中階級的ノーテンキさを歌いはじめた時。その流れに乗れなかったクラーイ人々に、受けていたんです。」

と、見てきたようなことを言い、さらに、TVドラマの主題歌のビッグヒットがメジャーな仕掛けで売れてきたが、そろそろ仕掛けにヒネリが入ってきて、不況の時代にシリアスなものが求められそれがヒットに結びついたんでしょう、とおっしゃる。そして次のように締めくくってくれた。

「これから、忘れられた個性あるフォーク・アーチストに脚光が当るとしたら、あがた森魚、加川良、山平和彦、山崎ハコ、中山ラビなんて人たちは出てくるかも知れませんね。ところで、みんな、どうしてるんでしょうかねぇ」

このコメントを述べた、お〜い中村俊夫君音楽評論家よ。わし、フーオク歌手、フォーク歌手とはよく書かれたけれど（ひどかったのはホーク歌手）フォーク・アーチストと呼ばれたのはハジメテだな。

フォーク・アーチストってどんなアーチスト。土びんでも造るのですか。それとも売れそうなコケシとか。違う、空を翔けるアーチストってわけ?でも気に入ったなあこの肩書き。

これから、肩書き求められたら、あがた森魚（フォーク・アーチスト）ってやると結構決まるかもね。それにしても中村君、山だとか川だとか森だとか、いかにもフォーク・アーチストらしい面々ばかりを選ぶなんてどういう魂胆なのだろう。

とりあえず断っておくが、この中村俊夫という人一個人を個人攻撃をするつもりはない。この中村さんのコメントこそが、多くの人々の感想を代表しているだろうからだ。

しかし、この中村さんが多くの大衆同様本当にどうしようもないのは、森田童子の歌を「自殺を促進するような暗い歌」とか「流れに乗れなかったクラーイ人々に受けていた」とかいう決めつけである。

この筆者は、本当に森田童子の音楽を聴いたことがあるのか。もし聴いたとして、本当に自殺を促進するような音楽に聴こえたのか。そして現実に森田童子の歌を聴いて自殺を促進された少年少女がいたという何らかの裏付けがあっての話なのか?そして、森田童子自身が本当に自殺を促進させたいとおもってそれらの歌を歌っていたのか?

このことはすべてこの筆者中村さんの憶測でしかないじゃないか。

もし森田童子が本当に自殺を促進させることを意図として歌っているんだとしたら森田童子は本当にくさったあわれな奴である。

この筆者は、森田童子をくさったあわれな奴と規定した上で、その後に続く奴が、あがたや加川良だと言いたいのだろう。

だが、この筆者は、森田童子もあがた森魚も聴いたりはしたこともないのだ。ミュージシャンが音楽に託そうとしている情熱や魔のようなものに耳や心を傾けようともしないから、うわっつらだけを撫で自殺を促進するようなとか、流れに乗れなかったクラーイ人々などと決めつけれるのである。ま、ようするに人間どもをおちょくって生き、おちょくることによって音楽評論家として生計を立てているのである。

どんなTV番組に出演するにせよ、こちらはまがいなりにもそれなりに気を遣い、エネルギーを集中させて歌を歌うなり言葉を選ぶなりしているのだ。映画「オートバイ少女」も完成していない今、そういった音楽評論家や、一般大衆に自殺を促進するような暗い歌の二番センジか三番センジかぐらいにおもわれながらTVで歌まで歌いたくないのである。

なお、オートバイ少女役、阿部秀子さんは3月下旬、オートバイ免許取得を終え、無事上京した。原作者鈴木翁二も上京しシナリオもいよいよ大詰段階に来た。映画「オートバイ少女」もいよいよ春らんまんである。

MONTHLY ESSAY INUMO-ARUKEBA by INUHIKO YOMOTA

犬も歩けば

四方田犬彦

連載第64回

休筆しても、あい変わらず多忙

VOLUME 64

ILLUSTRATION BY:やまだ紫

三月四日

スパイク・リーの『マルカムX』を観る。満席だった。前半はいいが、後半は冗長。結局、いかにも小学校で担任の先生に連れられて見に行くフィルムという感じに終わっていた。とりわけメッカからハーレムに戻ったあとの彼の思想の展開が、これではわからない。リーは大作ということで急に真面目になってしまった。

それにしても、なぜ今、マルカムXがもてはやされるのか。解放闘争の神話が無邪気に信じられた時代はとうに終わっている。にもかかわらず、世界のいたるところで民族の原理主義が非寛容の旗を掲げている。東京では強信家の英雄ではなく、英雄のノスタルジックな映像だけが若者たちの間でもてはやされている。

ぼくがこのフィルムを見た渋谷シネタワーは戦前は特高本部で、悪名高い甘粕大尉の大杉一家殺しが行われた場所だ。なんという皮肉。

三月五日

五木寛之と会う。一九五二年、東京にはじめて出て早稲田に通い出したころ、毎日自転車で月島まで業界紙の新聞配達に通っていたことがあったと聞く。自転車から転んで前歯を何本も折り、近くの洋服屋さんで手当てを受けたこともあるらしい。『月島物語』を出したあと、意外に多くの人が月島に忘れ難い思い出をもっていると知り、驚いた。たしか今村昌平『にあんちゃん』でも、主人公の少年は筑豊から東京へ出て、ビル街に威圧されながらとぼとぼと歩いていると、いつの間にか月島に出てしまい、そこで工場の就職口はないかと探す場面があった。偶然の一致に驚く。

『月島物語』のパート2を書くようにと、よく人にいわれる。これはもう不可能だろう。何よりも街が次々と破壊されつつあるからだ。ぼくにしたところで、いつまで住めるのかわからない。『日向下駄』の永井荷風はなるほど眼のつけどころのいい散策者ではあるが、ノスタルジアに耽けるばかりで、街のアクチュアリティを把握する眼差しを携えていなかった。今の荷風ブームは滑稽だと思う。

三月十日

金沢から朝に鮟鱇が丸ごと一匹到着する。一度吊るし切りをしてみたいとぼくがかねがね口走っていたのを覚えていた人が、送ってくれたのだ。全長七十センチのヌルヌルとした巨大な深海魚をなんとか台所の梁に吊るそうと試みるが、うまくいかない。仕方なく俎板の上に乗せて、鋏を用いて小一時間かかって解体する。なにしろちょっと油断すると、すぐにズルズルと板を這って滑り落ちてしまうのだから、始末に終えない。腹を開くと巨大な肝がぼこっと出現した。これは指南書の通り、洗浄した胃を裏返しにし、その内に詰めて茹でた。胃の裏側からは一匹、十五センチほどの魚が出てきた。捕獲される直前に肉食魚の鮟鱇が呑みこんだものだ。

三月十一日

吉本隆明、出口裕弘の両氏が遊びに来る。話が忠臣蔵に及び、吉本さんが、原口統三の『二十歳のエチュード』に、ぽつりと赤穂浪士の墓をめぐる話があって、敗戦直後の自分は静かな感銘を受けたという。出口さんは、俺はやっぱり忠臣蔵は苦手だという。

その後、話は武士の起源に及ぶ。吉本説によると、関東の武士は北面の武士とはまったく異なり、小さな馬に跨ってどこまでも続く関東平野を遊牧民のように駆け廻っていたのではないか。役に立たぬ王はこれを殺戮するというのがその思想であり、鎌倉幕府の頼家や実朝の死と北条の執権のあり方にはそれが投影されている。話は延々と深夜に及ぶ。

三月十二日

坂東玉三郎の監督第二作『夢の女』を見る。玉三郎は映画がめっきり面白くなったのか、溝口健二ばりにいたるところにクレーンを使用して、流麗な視線の移動を狙っている。満月の夜、吉永小百合が川崎の土手をどんどん歩いてゆく場面は、あきらかに花道に由来している。今年、東アジア映画論をまとめ終わってからぼくが勉強するの

が、このあたりの関係だ。

三月十三日

タガンガ劇場のリュービモフ演出による『罪と罰』最後にシベリアに囚人として送られたラスコーリニコフ役の青年が舞台の前面に出てきて、「ラスコーリニコフが老婆を殺したのは正しかった。ただパクられたのが失敗だった」と宣言する。この複雑なアイロニーの由来は何だろうか。光と影を多用した、面白い舞台だった。

帰宅すると、新しく筑摩書房から出した『読むことのアニマ』の見本が到着していた。これは十五歳までに読んだ本を再読して、歳月を経た後にどのように違う感想を抱いたかを記した、ある意味で「幸福な幼年期」を主題とした書物だ。ぼくはいずれこの裏側にある思い出、すなわち家庭裁判所の常連であった自分の子供時代がいかに惨めであったかを語る書物を書かなければいけないであろう。

三月十八日

「シティロード」編集部は今、大変なことになっているらしい。昨年出版元が倒産したのを九州の某が買い取り、復刊したまではよかったが、これがトンデモナイ人物であったらしく、勝手に全編集者に九州転勤を命じ、結果的に彼らを馘首同然の形に追いやった。執筆者のなかには以後の執筆を拒否した者もいたらしいが、映画配給会社は新しく満州国のように成立した編集部に情報と広告を流すだろう。全編集部のスタッフは結局、はした金で追放。華やかには見えるが、これが日本の情報産業の実態だ。

パリではアンリ・ラングロワ解任が大事件となり、ロンドンでは八〇年代にタウン誌「タイムアウト」の編集部が出版元と訣別して独自に「シティリミッツ」を刊行したとき、多くの人々を支援した。日本の映画メディアが今後の「シティロード」事件にどのような態度を表明するか。ジャーナリストや評論家を標榜する彼らの大半はおそらく知らない素振りを見せて、あい変らず相米の新作がどうだとか、シュミットがどうだとか、十年一昔の駄弁を並べるだけだろう。バブル雑誌が次々と崩壊するなかで硬派のレヴュウ誌の姿勢をとろうとした「シティロード」がこうした形で消滅するのは、何とも残念である。

林権沢(イム・ゴワンテク)の『アダダ』を見る。映画としてはもはや古いと思う。現在の韓国映画はこうした単なる封建制下における女性の受難を描いてよしとする時期を終わっているはずだ。だが、それにしても主演の申恵秀(シン・ヘス)の顔が突きつけてくる、何か逃げ場のない可哀しさの感情というのは何だろうか。これはいったい誰の顔だったのだろう、とぼくは振り返ってみる。四十歳のこれまでの人生のどこかで、いくたびも立ちあってしまったことのあるような顔だ。けれども、どうしても思い出せない。思い出せないことで、ぼくは道徳的に負い目を負っているような気になる。

三月十九日

廃刊した『朝日ジャーナル』の三十余年にわたるぶ厚いアンソロジーが、朝日新聞社からいきなり到着した。ぼくの望んでもいない対談が、まったく無断で掲載されているのに驚く。抗議をしようと思っても、当編集部はとうに消滅している。「朝ジャー」の編集者は最後まで粗雑な仕事をした、という印象だけが残る。ちょうどゴミの日だったので、そのままアンソロジーは外へ出した。

三月二十日

高井有一と新幹線のなかで対話。話はもっぱら彼と深い親交のあった立原正秋のことに終始する。立原夫人は夫の生前は、客の前に和服姿で出ていたが、死後はのびのびとセーター姿で出れるようになったという話。ぼくは高井さんのあの感動的な立原伝を読んで、在日韓国人としての彼が出自を偽ることでどれほどの心理的屈折を経た後に、日本文化の正統性を究める文学文学者というポーズを形成してきたかを教えられた。「差別問題は難しいよ。浮わついた気持でやっちゃいけない。前からタマが飛んでくるばかりじゃない。後方からも飛んでくるからね。」

三月二四日

祖父母の写真を整理する。大正、昭和と七十年間に八冊のアルバムに収録されたものを眺めていると、やはり写真が死と本質的な関係を結んでいることを思い知らされる。祖父は五二歳のとき、三二歳の祖母と再婚したわけだが、その時の談話が当時の新聞に五段記事で掲載されていて、これはおかしかった。

女装男職権乱用古書漫遊記

松沢呉一

vol.27

三月二日(火)

「ニャン^{2}倶楽部」(白夜書房)編集部の前田から、「来週火曜日に上京する名古屋の人妻をマワすので参加しないか」との電話。といっても強姦ではなく、女房を他の男に貸し出し、女房に一部始終を聞いて旦那が興奮する変態夫婦のプレイである。もはや相手が一人じゃ興奮せず、たくさんの人に犯して欲しいとの要望が編集部にあり、バスを連ねて一泊旅行をし、その間、十人以上の男達でヤリまくることになったのだそうだ。

来週関西に行く予定を変更しようかとも思うが、「ニャン^{2}」のバックナンバーでその人妻の写真を見たら、中年太りのオバハンだったので、予定通り関西に行くことにする。

三月五日(金)

杉作J太郎と、オナニー本を一緒に作ろうと話しているライターの青山正明と3人で、誰も聞いていないPCM音声放送で2時間にわたってオナニー話。オナニー史上に残る歴史的な番組だったかもしれない。誰も聞いてないけど。

三月六日(土)

横浜の古書会館に行ったあと、上野文庫の中川さんと高円寺の古書会館へ。中川さんは、「土地持ちの一人娘と結婚して、女房に店番をやらせ、古本屋をやりなさい」という。

もともと結婚に対する幻想や憧れなどありゃせず、であるからこそ、古本屋を開くことができるなら、結婚も悪くないと思う。今日から私は玉の輿に憧れる女を一切批判しない。土地持ちで店番好きの女はどこかにいないか。

夕方、渋谷の東急ハンズでレジに並んでいたら、隣のレジに並んでいた女が私の顔をジッと見る。「ガンつけやがって」と見返すが、よく見りゃすげえかわいい子だったので、ドギマギして目を逸らしてしまう。10秒ほどして、以前インタビューしたAVギャルの朝岡実嶺ではないかと気付く(その後彼女はAV界から引退)。あっちも「どこかで会った人」と思ったのだろう。しかし髪型や服の雰囲気が違うし、スッピンのため顔もはっきりと確認できず、結局声をかけるタイミングを逃してしまった。もしそうだったら、次の予定をすっぽかして茶でも飲みに誘ったのになあ。

三月八日(月)

昼過ぎに兵庫古書会館の古書展に行く。全然客がいないし、ロクな本がない。注文していたものはだいたい入手できたが、落丁本が2冊も混じっていて返品。神戸はいいものが出るという話を聞いていたのにガックリである。続いて阪急古書の街へ。いいものが少しはあるのだが、神田並の高さで手が出ず。夜はホテルの近くの古本屋に行く。ここは安いがたいしたものはない。

三月十日(水)

大阪球場の古書街。欲しいものがあったが、やはり高い。古本屋のオヤジさんは「東京の方がいいものが出る」という。せっかく宗教取材のついでに全国の古本屋を回ろうと思い立ったというのに、確かにこれでは東京の方が安くていいものがある。肩を落として帰京。

三月十五日(月)

宗教巡りで三重へ。留守電を聞いたら、渡辺祐から伝言。今日中に原稿をFAXせよとのこと。昨日、原稿の〆切だったのだが、書く暇がなかったので知らないフリをしていたのだ。皆、いろんなことを忘れるのに、原稿の催促だけはなかなか忘れてくれない。昨夜は徹夜で今朝新幹線の中で寝ただけのボロボロの状態で、夜中、ホテルで「オマンコ、ヌレヌレ」といった原稿をコツコツと書く。

三月十六日(火)

朝、チンマン乱発の原稿をホテルからFAX。ホテルの人に中を見られやしないかと気が気じゃない。

この日の午前中に取材した宗教団体には笑わせていただきました。出てきた教祖は、たぶんかつては大層威厳ある人物だったと想像できるのだが、年には勝てず、どうも耳がよく聞こえないようで、質問をしても返事をしなかったり、黙ってしまったりする。

やがて教祖は、何を思ってか、突然「トイレはあっち」と私に指で示し、私はトイレに行かざるを得なくなってしまった。耳が聞こえないのでなく、少しボケているようで、こちらが聞いていないことを突然話し始めたりもする。しかし、この団体は憎めない。

大袈裟なことを言ったり、積極的に宣伝をしたがったり、都合の悪いところを隠したりする団体よりも、このように淡々と日々を送り、そのままの姿を見せてくれる人々の方がずっと気持ちがいい。

地方に来て思うのは、若い女の子がやたらとかわいいことだ。都市部の十代は色気づきやがっていけねえや。背伸びしたがるんだろうが、いくら大人のフリをしても、本当の女の魅力を身につけた大人の女に勝てるハズがなく、だったら素顔をそのまま出した方がずっとかわいい。宗教も娘さんも同じっす。

夕方行った宗教団体は、どうも好きになれない。悪い人達じゃないのだが、いい人達でもない。にもかかわらず笑顔で対処しなければならないところが、宗教取材の辛いところだ。こっちはちょっとやそっとでは驚かないことくらいわかりそうなものだが、「どーです、うちはすごいでしょう」などと何の疑いもなく自慢されても困るですよ。

ジッと耐えることを続けていると、だんだん人間が出来てきて、そのうち悟りを開きそうな気がする。

この日、金がなくなる。昨秋、PAPERSに凝り過ぎて仕事をしなかった余韻が残っており、なのに古本を買い漁り、しかも宗教取材の清算を全然していない上にギャラがまだ払われず、さらに某社や某社の未払い金もまだ支払われないところに、電波の仕事が今月ですべて終了という具合で、貧乏まっしぐら。土地持ちの娘さん、連絡下さい。

新幹線の金もないので、5月支払い予定のギャラを早急に払ってくれないかと某社に電話するが、そこの経理の娘が意地悪で、「どうしてそんなに貧乏か」のレポートを出したら振り込むという。

この夜、1年4ヵ月ぶりに実家に泊まる。駅からタクシーに乗ったら、僅か4円しか金がなくなり、夜中、睡魔と戦いながらレポート書く。こんなものを親に見られたらどうしようかと、またドキドキする。

実家のネコは18歳になって、去年、獣医の団体から表彰されたそうである。人間で言えば百歳を越えている。このまま金がなくて身動きとれず、ここであのネコのように百まで長生きして表彰されても嬉しくないなあ。

三月十七日(水)

突発性難聴が進行して耳がまるで聞こえなくなった父に煙草をもらい、母に「銀行で金を下ろしそびれた」とウソを言って金を無心。情けない。すると母は黙って5万入りの封筒を私に差し出した。こんな親不孝者に5万も。嬉しいなっと。一瞬笑みを浮かべてしまったが、申し訳ないので、1万だけ借りる。

その際、母は「そろそろ嫁をもらったらどうか」と言う。「結婚はしない」と親を教育してきたつもりなのに、いまさら何を言うかとも思うが、心当たりがあるかのようなあいまいな返事をしてしまう。私の頭の中では、既に土地持ち、店番好きの女と古本屋をやる妄想が広がっているのであった。

夕方、取材のあと、振り込まれた金を銀行で下ろして、名古屋の古本屋で散財。

一緒に行ったカメラマンの槻ノ木が「名古屋ではまだかわいい子を見てないので、このままでは東京に帰れない」とゴネるが、美人がいないので有名な名古屋でそれを求めると、5年は帰れないと説得して新幹線に乗る。

三月十九日(金)

留守電に、知らない女性から「シティロード経由で一緒に風呂に入りたいとお願いしていた者です」と入っている。なんだ、これ。店員の肩書欲しさで、「どこでもいいから雇ってくれ」とシティロードに書いたのを読んで、ソープの子がソープで店員をやらないかとか、銭湯の娘が番台で働かないかと誘ってくれたのかとも思う。だったらいいが、時々いる頭のおかしい読者かもしれない。

その後シティロードはいよいよ混迷を深め、編集者8名が一挙に退社することになった。このゴタゴタで、この入浴娘からの手紙も転送されていないのだろう。気になる。

三月二十三日(火)

薔薇族編集長、伊藤文学氏に取材。記事では、ちょっとしたコメントにしかならないのだが、つい3時間もいすわってしまう。さすがに20年以上もホモ雑誌をやっているだけあって、面白い話が次々に出てくるが、最近の若いゲイに批判的なのがひっかかる。

「若いヤツらは忍耐がない。だから、すぐに自分がホモだと人に言ってしまうんだよ」とまで言うのだ。そういうこっちゃなかろう。ホモの世界を作ってきたという自負があるから、他の動きを認めたくないのだろうか。

三月二十五日(木)

入浴娘から電話。彼女はソープ嬢でも銭湯の娘でもなく、人と風呂に入るパフォーマンスをやっているアーティストであった。

「素っ裸で?」と恐る恐る聞くと、「もちろん」と堂々と答える。これは面白いと近々私も芸術させていただくことにする。でもチンポが立ったら恥ずかしいなあ、芸術なのに。

三月二十七日(土)

取材で行った新宿二丁目の女装クラブ「ソウルメイト」で女装させてもらい、自分の美しさにホレボレする。私って意外にきれい。同性愛もSMもダメな欠陥人間と思っていたが、これならイケる。

女装愛好誌「ひまわり」のキャンディさんによると、私のように喜んで女装する人は女装マニアにはならないことが多いとのこと。私もそう思うが、ようやく自分にもできる変態を見つけられて嬉しい。

NIFTY-Serve　FAX配信サービス

CLUB

羽良多様

TEXT: DAN TAQUASUGUI

高杉弾

ぽつりぽつりと桜が咲きはじめたうららかな春の昼さがり。都内某国立療養所結核病棟の屋上喫煙室。数人の入院患者たちが煙草を吸いながら話している。

登場人物
登谷渡（45歳・板前）
菊池太一郎（51歳・タクシー運転手）
倉林睦夫（56歳・左官工）
橋詰巌（60歳・配管工）
岡本栄一（64歳・無職）
野々山孫八（69歳・無職）
高橋荘右衛門（74歳・無職）

巌「あそこのあれはやっぱしなにかね、看護婦の方であれしてくれるんかね？」
渡「9階のばやいは看護婦さ来てから勝手にすればいいだべ、かまわねえだべ」
栄一「そげなこたねえだろ。西川口ちえばあんた、例の裏道さ抜けてほれ、なんとかちう信用金庫の横さ通ってまあっすぐ行けばすぐでねえか」
睦夫「結核も怖えけど糖尿も怖え病気だよ馬鹿にしてたら大変なことになるよ気いつけねえと大変なことになるよ」

太一郎「朝からぷうぷうぷうぷう屁ばっかり出やがってな、まわりの爺さんだって一日中ぷうぷうやってるけどな、あれ、みんな音が違うんだよな微妙にな、わははははあ」
荘右衛門「ぐほ、ぐほぐほ、ぐほぐほぐほ」
栄一「そげなこたねえだろ。わしら音の違いで聞き分けるだよ。調子いいのとそうでねえのがあるべ」
渡「やっぱ競艇より競輪だべ。モータの音ちうても素人にはわがらねからな」
睦夫「結核も怖えけど糖尿も怖え病気だよ馬鹿にしてたら大変なことになるよ気いつけねえと大変な合併症怖えからな馬鹿にしてたら大変なことになるよ」

孫八「わしら餓鬼の時分はな、蛙でもかまきりでも何でも取って食ったもんだ。贅沢言うとる餓鬼はひとりもおらんかった」
太一郎「岡部もなあ、アテにならないからなあ。来るときゃ来るけど来ねときゃ来ねえからな、わははははあ」
栄二「そげなこたねえだろ。さすがの岡部ちうても来るときゃ来るが来ねときゃ来ねえだよ」
太一郎「だからよ、来るときゃ来るけど来ねときゃ来ねえ言うとるだろが」
渡「んだ。来るときゃ来るけんど来ねときゃ来ねだ」
荘右衛門「ぐほ、げほげほげほ」
睦夫「甘め物あんまし食わね方がいい結核も怖えけど糖尿も怖えからな」

倶楽部イレギュラーズ

療養とは

病気を治すために

体を休め

栄養をとること

巌「やっぱ糖尿のばやいはあれかね、なにしてからするかね、例のほれ、なんとかちう薬あるでしょ、あれ飲んでからするかね？」

栄二「そげなこたねえだろ。岡部が糖尿ちう話は聞いたことねえだよ」

孫八「わしら餓鬼の時分にな、裏の山に赤あく光るでっけえ隕石が落ちただよ」

渡「ひとたまりもねえだな。痛かろなあ。熱かろなあ」

巌「それはあれかね、なにによく出ちょるあれかね？」

孫八「隕石かと思ったらそうでなかっただ」

太一郎「結核かと思ったら肺癌だったちゅうこともあるからな、わははは」

荘右衛門「ぐほほほ、げほ、げほ、ぐほげほぐほ」

孫八「空飛ぶ円盤だっただよ」

荘右衛門「ぐほ、げほげほ」

巌「それはあれかね、例のなにかね、なんとかちう例のほれ、あれかね？」

孫八「中から緑の気色わり宇宙人でてきてな、みんなして寄ってたかって殺してしまっただよ」

栄一「そげなこたねえだろ」

睦夫「糖尿の合併症ほど怖えものねえからな馬鹿にしてたら大変なことになるよ」

太一郎「しかしな、飯は不味いが人間どんな環境にも慣れるもんだな、わははははあ」

渡「そうだそうだ人間なんにでもすぐ慣れるもんだ」

睦夫「そうだ、人間なんにでもすぐ慣れるだ」

栄一「人間なんにでもすぐ慣れる」

巌「慣れる慣れる」

孫八「慣れる、慣れる」

荘右衛門「ぐほ、げほ」

IRREGULARS

GRAPHIX: HÉIQUITI HARATA

発信元　高杉　弾

17

✖創作小説

君のコンセント（第3回）

久住昌久

「アイトキタイ」前篇

こんな事ってあるのか。
屁が止まらなくなってしまった。冗談じゃないぞ。
朝、起きがけにベッドの中で
「ブォーッ」
っという、あたかもゾウかカバの雄叫びみたいなのをして、それがあんまり気持ちよくて一気に腹が減って食欲が出たほどだ、そこまではよかった。実に爽快な目覚めだった。
ところが、その後トイレに行ったら、ブスブスバスバスと、まるで大きな泡がお尻から連続的に出るがごとき屁が、自分で思っていたより二倍も三倍も出る。
なんだか、お腹の調子がいいのやら悪いのやらわけがわからない。便は正常の、実に健康的なしっかりした一本ものだった。
しかしコーヒーを飲んでトーストを食べている際中にも、どうも何か、下腹のあたりが張ってくる。
眼はテレビのニュースを見たまま、口を止めて、半分尻を浮かせてちょっと力を入れたら、
「ぷぅ〜〜〜」
だって。とぼけた高音を発しやがる。人には見せられないよこんな姿。全く下品きわまりない。最低だ。
結局、玄関出るまでに、二、三十は出ただろうか。さすがに自分でもこれはどうした事かと思った。
ところが駅に向かって歩いている際中も、それこそ電信柱一本ごとにしたくなる。
歩きながら屁をするなんて、酔っ払いの中年みたいな真似はできんと思ったが、なにかの拍子にちょっと気が抜けると
「ぷっ」
と出てしまう。思わず両の尻っぺたを引き締めるが出てしまってからでは遅い。あたりに通勤通学の人がいなかったか、思わず横眼で確かめる。
いったいどういうわけだ。昨日そんなに芋だの豆だのといった、俗にガスの素になるといわれるようなものを大量に食べたりしたわけでもないのに。
駅のトイレに入り、したくもない小便を無理にしながら、我慢してきた分、思い切って力んでみると、
「ぶぶ――――っ」
と、まず深い、哲学者の溜め息のような低いトーンのが長々と一発。長すぎて、ちょっと周囲の人間に恥ずかしくさえなった。
続いて、哲学者の弟子の返事のような、
「ぶっ……ぶっ……ぶうっぷ」
というのが出る。ひと呼吸おいて、またちょっと力を入れると、
「ぶす――っ」
というまたしても哲学者のボヤキのようなのが出る。
なんだかいくらでも出るような気がして、自分の腹が恐くなって、トイレを出た。
電車に乗ってる間もしたくなってきた。
いったんしたいと思ってしまうと、よけいにしたくなる。だから思わないように、気を散らそうと、中吊広告をながめていたら、電車がカーブでガタンと揺れて、とたんに、
「プ――ッ」
と出てしまった。全身が肛門のようにギュッとすぼまった。しぼられた雑巾みたいに冷や汗がジワッと出る。
でも、どうやら、電車のガタンの音にまぎれて、周囲の乗客は気付かなかったようだった。少なくとも態度に出す人はいなかった。
研究所について、仕事をしている間も、何度もトイレに立って屁だけして帰ってきた。
ほとんどシャックリのように屁が出るのである。たぶん、我慢という事をしないで、本能にまかせてしていたら、ほとんどシャックリと同じなんじゃないだろうか。
シャックリを止める方法は自分なりに二つ三つ知っているが、オナラを止める方法はさすがに知らない。まさか人に相談もできない。あんまりトイレに行くのもヘンに思われると思ったから、デスクについたまま、そっとスカシ屁もした。その時は、背中を丸める姿勢をして、なるべくガスが背中に抜けず、座ってる自分の両足の間の方に出るよう工夫した。もし匂いでバレたら嫌だから。
でも匂いはほとんどしないのが救いだった。
ところがその救いが昼までだった。
昼飯に肉野菜炒め定食を食べ、いつもの喫茶店でコーヒーを飲みながらマンガを読んでいたら、いきなり便意ならぬ猛烈な屁意。腹を揺らさぬような気持ちでトイレに入り、大きな音でもして店内に聴こえぬよう、ズボンの上から、片方の尻の肉を手で外側にむんずとつかみ開き、要するにお尻の穴が開くようにして、力んでみると、力むまでもなく、
「すふ――――っ」
と太い風が下腹から尻を通って外界へ抜けて行った。その気持ちのよい事。体の中の悪いものがいっぺんに出ていったようで、なにか幸せのようなものすらこみあげてきた。
ところがそいつを境に、出る屁出る屁が、なんだかやたら臭くなってきた。腹をこわした時のようなイヤな匂いではないのだが、典

型的なオナラ臭。あのマヌケで、どこかマンガ的な、トンマでグズでノロマな匂い。それが、どんなに小さな、

「ぷすっ」

というオナラでも、ぷ~んと立ち昇ってくるのだ。午後二度目のトイレでそれを知って、戦慄した。これではもうスカシ屁もできないではないか。

本当に戦慄である。

今夜はデートなのだ。

しかも深く付き合い始めてまだひと月そこそこしかたっていない彼女との。まいった。大丈夫だろうか。

食事して、ちょっとバーに行ったら、その後、たぶんきっとホテルに行くような気がする。気がするというよりも行くつもりだ。

ホテルの密室で、あまりトイレに行くのはそれこそヘンに思われる。というより、愛の行為の際中にあやまって派手な放屁でもしてしまったら。そんな。

そんな事は無い。それまでには治っているさ。こんな話しは聞いた事が無いもの。こんなに屁が出放題に出てたら、たとえガスであろうと内臓がどうかしちゃうはずだ。だけど別に腹が痛いわけでも、便が下ってるわけでもない。体調そのものはむしろいいのだ。大丈夫、大丈夫。

しかし夕方になっても屁意は弱まらなかった。

レストランは昔から知っている、安くて感じのいい、店に行った。テーブルが大きいので、向かい合った彼女と比較的距離ができる。それに店の適度なにぎやかさも、今日の場合助かる。それにイタリア料理の店なので店中にニンニクなどの匂いがしているのも、いいカモフラージュになってくれそうだ。

結局店ではトイレに2回たち、その他にスカシを3回ほどしてしまった。スカす際には研究所と違って、背中を反らせるようにしてガスを後ろに逃がすようにした。手を添えるのもなんなので、椅子でなるべくお尻を開くようにしたり、腹筋に力を入れて、なるべくそーっと、だましだましガスを抜いていくには神経を使い、ワインを飲んで談笑しながら冷や汗をかいていた。

ビールとワインで、ふたりとも結構いい気持ちになって店を出た。だから、もう一軒、と思っていたバーは省略して、何も言わずにホテル街の方に足を向ける。彼女はそれに対して「どこへ行くの?」ともなんとも言わず、話しながらついてくる。店でコーヒーも飲んでしまったので、喫茶店という感じでもない。

時間は9時半。彼女は自宅から通勤しているが、時間はまだ十分ある。

左腕のひじを曲げて隣りの彼女にそっと突き出し、彼女の顔を見ると、ほんのわずかにためらいつつ、そこに自分の細い腕をまわしてきた。半袖からでた白い腕を水銀灯が照らしてる。

こんなふうに、女のコと付き合うのは、実に大学を卒業して以来五年ぶりだ。二十八にもなって高校生のように胸がドキドキしているのがわかる。

製薬会社に勤めている彼女は、四つ歳下だが、聡明で明るくて、そして美人だ。こんな人と、よもや付き合えるとは思わなかった。絶対にこの恋愛は離したくない。桜の花びらのようにほんのりピンク色になった彼女の頬がいとおしくてたまらない。

なのになんという事。ガスの方はおかまいなしだ。どうなっているのか、どんどん生産されている。もはや、この吸った息が、胸ではなく胃の方に入っちゃって腸を通って臭くなりながら出てくるとしか考えられない。

自分の下半身がうらめしかった。精神を肉体が裏切っている。あざ笑っている。小学校の体育の時間のつらさを思い出す。とくに跳び箱と鉄棒のみじめさ。

「あ、見て、月があんなに大きい」

「え」

見上げたとたん、

「ぷ」

と屁が鳴いた。全身からドッとアドレナリンが吹き出した。すごく小さな音だったが、それはエコーがかかったように両の鼓膜に響き渡った。一瞬言葉に詰まった。

「満月かなァ。でも右下の方が少しかけてるかしら」

「そうだね。ほんと、大きいね。でも、あれはほら、低い位置にあるから、すぐ下のビルと対比されて大きく見えてるんでしょ」

「え、そうなの?」

彼女の声がほんの少し大きくなったような気がする。それは屁の音に気付いたのを、知らないふりの演技をしているからなのか。それとも本当に聴こえなかったのか。

「だけど理屈ではそうだって思うけど、どう考えてもアレは、普段より大きいよね」

「大きい大きい。絶対大きいよ、だってさ、だってさ」

腕に回された彼女の手に力が入る。細い五本の指が二の腕をぎゅっとつかむ。そうすると何か心臓までが握られたように切なくなる。

「ねぇ、こないだぐらいの時間に帰っても、大丈夫?」

こんな言い方になってしまった。彼女は

「え」

と言ったあと、ちょっとはにかんで、でもこちらの眼を見て小さな、かわいい声で、

「終電で帰れれば」

と答えた。ふたりはちょっと無言で歩いた。

「ごめんなさい。一応、電話したいんだけど」

「いいよ」

「ごめんね」

彼女はそう言うや、近くの電話ボックスに入った。

これ幸いに、電話ボックスから少し離れ、ひと気の無いことをいいことにそっと下腹部に力を入れてみた。

「ぶはお~~~~~~~~……ぶっ、ぶっ」

待ちくたびれたプロレスラーの吐息のような野太いガスの塊りが、少し怒ったように抜け出ていった。

(つづく)

上野昂志の

黄館

第　回

イラストレーション★ユズキカズ

ニン・インの『探楽』を一日も早く東京で公開しよう！

三月の二九日から四月の八日まで、中国の電影局（中国広播電影電視部電影局）の招きで、北京と上海に行ってきた。電影局というのは、中国における映画製作・配給・輸出入など、映画に関わるすべてのことを統括する役所であるが、おかげで短い旅ながら、撮影所では、北京電影製片廠、八一電影製片廠、中央新聞記録電影製片廠（ニュース記録映画製作所）、児童電影製片廠、それに上海電影製片廠を見ることができ、そのほか、陳凱歌などを育てた北京電影学院や日本のフィルムセンターに当る電影資料館を訪ねることができたのである。それぞれ、おもしろいことがあったし、なかでも、ちょうど二次試験をやっていて、その試験風景を見せてくれた北京電影学院の様子など、すぐに誰かに話したい気もするのだけれど、ここでは、あくまでも映画のことを書きたいので省略する。

ただ、その映画に関わることで、これからの中国映画に影響を及ぼしそうなことを一つだけ書いておこう。それは、中国の改革・解放政策が、映画界にも波及して、そのシステムを変えようとしているということだ。すなわち、これまでの中国映画は、撮影所は映画の製作だけをやり、配給は、別の組織が一手に引き受けていたのだが、これからは、個々の撮影所が製作から配給まですべてやって、採算をあげていかなければならないということだ。つまり、健在だった頃の日本の映画会社と同じようになるということだが、しかしいまの撮影所にはそのためのノウハウが何もない。宣伝の仕方も知らなければ、配給のやり方も知らず、それに当る人材もない。いったい、どうやって自分たちが作ったフィルムを宣伝し、全国に配給していったらいいのかということで、撮影所の連中、たとえば北京なら、去年、日本でも公開された『血ぬられた朝』の監督の李小紅だとか、彼女や陳凱歌と同じ第五世代の夏剛などという監督が、ワイワイやっているのである。

日本の場合は、会社が映画館を系列化し、それが、会社で映画を作らなくなったいまでも自由な配給を大きく疎外しているのだが、中国の場合はこれが逆なのである。映画館が系列化されていないだけ、いろいろな可能性が考えられるとはいえ、やはり映画館としては、当る映画をかけようとするから、そうでないものは、作れなくなるという事態も十分考えられる。中国では、興行成績を、日本のように観客動員数ではなく焼いたプリント数で計るらしいが、たとえば去年、日本で受けた『心の香り』などは、中国では三〇本ぐらいしかプリントがでず、工業的にはまったくの失敗作といわれていたという。そういう作品が、これからは、企画の段階で通らないという事態も十分考えられるのである。これは作家や製作側にとっては重大な問題であり、とりあえず観客として接しているわれわれにとっても無視できない問題であろう。

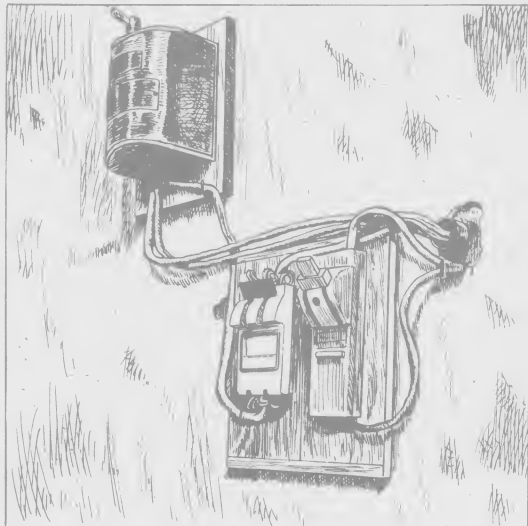
作品の話をしよう。

今度の旅では、出かける前に、日本で見られない作品をできるだけ沢山見たいと思っていたのに、正味八日間であれこれスケジュールがつまっていてままならず、それが残念だったのだが、ただ一つニン・イン（寧瀛）という若い女性作家と出会い、その作品を見ることができたのが最大の収穫であった。それも、幸運だったのは、電影局が予定していなかったのに、彼女のほうからオファーがあって、北京電影製片廠の試写室で見ることができたことである。しかも、これは人生の妙というべきか、上海に行く前に夏剛の『無人喝采（喝采する者もなく）』という作品を同じ試写室で見ていたところ、元ロッテルダム映画祭のディレクターで、いまロカルノのディレクターをやっているマルコ・ミュラーに偶然会ったのである。彼は、ロカルノ映画祭のための作品選びに来ていたようだが、ほとんどすれ違うようにして会ったマルコが、旧知のニン・インに「上野が来ているなら、ぜひ彼に作品を見せるように」といったというのだ。わたしは、ロッテルダムでずいぶんマルコの世話になったが、それが北京でも、こんな幸運をもたらしてくれるとは、思わず映画の神様に感謝したくなる。

それほどに、ニン・インの『探楽』はよかったのである。話は、北京の京劇の劇場で受付をやっている老人が、退職して、無聊の日々を送るうちに、公園で京劇の真似ごとをやっている老人のグループに出会い、公民館のようなところに掛け合って、彼らの練習場所を確保するが、やがて老人たちの間で確執が起こったり、その建物がとり壊されたりして再び公園で練習をするようになるという、簡単な話で、それこそ、電影局にいわせれば中国の老人問題を扱った作品ということになってしまうのだが、映画はまったくそんなものではない。

まず、出てくる老人たちの顔がいいし、その撮り方がいいのだ。あとで聞いたところでは、主役の老人を除いて全部素人を使ったということで、実は、その主役も、最初は素人でやったのだが、その人が病気になったために、ほとんど無名の俳優を起用したということだけれど、それにしてもいい。たとえば、彼が、退職したにもかかわらず、やはり六時に起きて、一人暮らしの部屋のなかを

illustration by Kazu Yuzuki

歩きまわるところを、やや引き気味のキャメラがゆるやかにパンしてその動きを追っていくところいう手際が大したものだし、それがあるので、翌日、もう一回同じ場面が繰り返されることが生きてくるのである。

この繊細で緻密な描き方は全編にわたっているので、老人たちが、京劇の練習をするところや、彼らがささいなことで争う肝心の場面がどうなるか、映画ファンなら想像するだけで心躍ると思うが、この寡黙な描写力はただものではない。という以上に、そこには日常のさりげない行為のなかから絶えず何かを発見していくという、語の真の意味でのドキュメンタリー精神が横溢しているのである。だから、素人の京劇グループの老人たちの顔の一つ一つが、それぞれ得もいわれぬ表情を示して感動的なのだ。いやあ、凄い、凄いじゃないかと、わたしは、暖房のない試写室の寒さに震えながら熱くなっていた。

など実にいいし、退職一日目に、職場を訪ねるとすでに昨日まで彼が座っていたところには、別な男が座っていて、親方はこっちの椅子に座ってくれなどといわれて、なんとも憮然とした表情のまま、やがてプイと外に出てきてしまうところなども、ほとんどセリフのないままに、正面と横からのショットで老人の顔を見せるだけですべてをわからせてしまうのである。

あるいは、その老人が、散歩の途中で風呂屋の窓板が開いたままなのに気付いて、それをしめるという場面があるのだが（しかも、この場面は二度出てくるのだ！）、そこではまず、路地が写り、奥のほうから掃除人がゴミを運んできてドラムカンに入れる。そうやってゴミを燃やしているのだが、するとその道に直角に交差する道の奥から主人公が歩いてきて、ドラムカンの蓋が開いたままなのに気づいてそれをしめる、そうして道を歩いて行くと次に風呂屋の前にさしかかるというわけだが、この描き方に、ニン・インという監督の映画に対する姿勢が明確に出ているのである。つまり、まず、ある空間が写され、そこに人が登場して、きわめて日常的な動作をするのだが、映画の画面は、その細やかなアクションによって活気づくと同時に、その一連の動作によって、一言のセリフもなしに、この老人の性格や生活ぶりを鮮やかに浮かび上がらせるのである。

それに続く風呂屋の窓板をしめるところの描き方にしてもそうだ。窓板は普通にしめただけでは、すぐに開いてしまうので、彼は道に落ちていた石を拾って、そこに当てがい、やっと安心して歩き去るのだが、その後ろ姿を見せたあと、逆の位置から風呂屋の窓板を写し、次にゆっくりパンをして、道の反対側に立っている若い男を見せるのである。男は老人のした一部始終を見ていたらしいが、その帽子の下の汚れた顔の異様なこと。その顔の印象が、見る者に軽い胸騒ぎを起こさせると

こういう作家が、中国にいたのだ。映画のあとに、日本から同行した北京大学出身の女性の通訳でインタビューをしてわかったのだが、ニン・インは、陳凱歌や張芸謀などと同じ一九七八年に北京電影学院の監督科に入ったけれど、第五世代として分類されなかったのは、彼女が張芸謀などより一回りも若いからで、おそらく入学時には十七、八だったのだろう。その後、二年のときに試験を受けてイタリアのチネチッタに留学、七年間いたあと、この北京電影製片廠に戻ってきた。マルコ・ミュラーとはイタリアにいた当時に知り合ったという。ともあれ、北京でベルトルッチの『ラストエンペラー』の助監督をやり、その後、ドキュメンタリーが撮りたくて、ドイツの資本で撮ったが、製作側と意見が合わず、完成しないまま、そのフィルムがいまどこにいっているか、わからないという。そのあと、撮影所の当てがいぶちのシナリオで劇映画を一本（共同監督で？）撮ったが、実質的なデビュー作は、この『探楽』である。

この経歴を聞いただけでも、この三三歳の女性監督がただものでないことはわかる。経歴にも、やはり才能というものがあるのだ。しかも、第一作が、いまや幻のドキュメンタリーだったというのもいいではないか。だから、彼女の口からイタリアのネオ・レアリズモやゴダールのことが（実に控え目にではあるが）出たのも、むべなるかなと思う。彼らの精神を、ニン・インは確かに受け継いでいるのだ。マルコ・ミュラーには、ロカルノに出品しないかと誘われたが、自分としては、同じアジア人に見てもらいたいから、東京国際映画祭に出したいと思っていると聞いたときには、この映画祭に対するわたし自身の評価は別にして、なんとかこれに応えたいと痛切に思ったことだった。

■ええ陽気にやっとなって参りましたな。さて先月またお休みしてしまい申し訳ございません。今後当欄では４コマ以外の投稿（写真、１コマ、イラストなど）も受け付けますんで、「面白くてパクリでなければ何でもアリ」の精神でもって、ドシドシお送り下さい。その場合、以前からお願いしてますが、必ず作品を送られる場合はペンネーム使用でも本名、正しい住所を明記下さい。記載無い場合は掲載出来ません。また、前回札幌の今野氏の４コマgr通信参加への呼び掛けに答えてくれた座間市の大友克洋君、正しい住所氏名を連絡してあげてくれたまえ。こちらでも判っているが、本人から連絡するのが礼儀ですから。そんな訳で前回のお題への解答編から行きます。…皆さん苦労したようね♥次回からはお題ナシで行くわよ。

これが前回のお題であった。

お題部門

★札幌市の飯田健司の作品

※今月のお題も志村のせいで皆苦労したようではある。シムラ星人がぞろぞろ……

★浦和市の猫乃森海鹿の作品

※自称『４コマGARO唯一の正統派』との事だが、下ネタに持って行くのもナカナカ楽しいぞ。きっと。

★座間市の大友克洋の作品

※かくして地球は宇宙怪獣ギギラによって壊滅させられたのであった。ところで人の名での投稿は、やめろ。

★京都府のGOGOばんちゃんの作品

※男の「イク」とゆーのは非常に動物的なモンだと思うが……詳しく知りたい場合は連絡下さい。

★高槻市の加藤周の作品

※うわー懐かしい人からの作品ですね。のりまん、のいれからの常連でした。ガロ、まだやってまっせ。

★札幌市の沢井慶広の作品

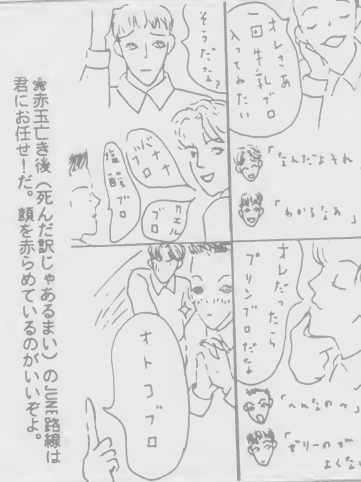
※コマ表示が麻雀牌なのが良い。さて北海道勢の活躍はめざましいですな。同じ道産子として嬉しいですぞ。

★大阪市のおけらの作品

※毎回独自の世界を展開してますな。鴨川つばめは近々また漫画を発表するらしい。関係ないけど。

★熊本市の海野やまねの作品

※俺は左手にソフトクリームを持ってたのか。……知らなかった……

一般部門
★富山県のスギヤマノブコの作品
スリル博士
©スギヤマノブコ
ねぇ
ねこと犬どっちが好き？
うーん犬かな
ブブー
ちぇー。
ざんねん賞だよ はいティッシュ
🌷今月の大変よくできました🌷
富山県から津野裕子先生に次ぐ期待の星登場！…って津野さんスイマセン。私は猫の方がすきなので当たりだったのか？当たりでもティッシュが来るような確信に近い予感があるけど。絵も宜しい。特に兎。
★佐倉市の板垣修業の作品
イタガキシュギョウ
※どーした。暗いではないか。人間やりたい事やって死ねたら本望だ。その通りだ。CGエロマンガだっていいではないか。頑張れ。
ケガハ刀剣ノモトデス。オ気ヲ付ケ下サレ。
★札幌市の渡邊理香の作品
THIS IS NOT JUSTICE.
正義の味方
マジパンマン
へへへ いやだね
悪いヤツをやっつけるんだ
やっちまえ
バキッ
たっ助けてくれぇっ
うあぁぁ…
※悪玉の方が可哀相、というパターンはよくありますね。もう一つ突き抜けて欲しいですな、ウン。
★札幌市の飯田健司の作品
かものはしリターンズ
文鳥を手なずけた…
へえ ほんと
久々のザラビー
お手！
パタパタ
ふふ かわいいや
口ばし！
つんつん
パタパタ
わ…わあ…
目！
ひぃぃぃ いいい…!!
※飯田健司は毎回非常に好調で、北海道4コマGARO優秀投稿者賞をあげよう。何も賞品は、無いが。
★札幌市の沢井康広の作品
もみあげもじゃ男
ワサワサ
僕は宇宙人じゃないよう
ほら
キャー変態
キャー宇宙人ー
※タイトルがヒジョーに良い。それにしてもここまで巨根（凄い言葉）だと人に見せたくもなるよなぁ。
★札幌市の三甲みつおの作品
戦え フロッグマン
何もCity内 三甲みつお
クラゲの通り魔
おういきみ
イヤーン
おぼんにおよぐとクラゲに刺されるよ
写真集のサクエイで来た。
スケベで良かった。
スカートめくりマシーンか
シリーズ化か？
※三甲氏はひき続いて4コマer通信購読者募集中です。私が発行していて挫折したのを引き続いてくれるので、常連さんは連絡してみてちょ。〒004 札幌市厚別区中央2-4-15.1-1108 今野隆宏まで。バックナンバーについてもOKですんで一つ宜しく。
★安城市の石川メンスの作品
ねぇ、チュウ♡して・石川メンス
ねぇチュウして♡
いいよ、しょうがないなあ
うそっ!!
おっ!!
ママーおしっこー
Finish
※縮小されると絵が見辛いのよ。気をつけてね。作品の方はよく見ると味があって良いのだが。
★北区の中居ラッシーの作品
オレさぁ一回牛乳ブロ入ってみたい
そうだなァ
バナナブロ
塩酸ブロ
カエルブロ
「なんだよそれ」
「わかるなあ」
オレだったらプリンブロだな
オトコブロ
「へんなのォ」
「ゼリーのがよくない？」
※赤玉亡き後（死んだ訳じゃあるまい）のJUNE路線は君にお任せ！だ。顔を赤らめているのがいいぞよ。
駅の貼り紙→
係員の指示で
かまぼこ
ガロ
4 951557 061107
…とまァ、こーゆーのがあったら送って下さいね。
では又来月。
QBB
レアチーズケーキ
★横須賀市のタクシー大会員の作品
見合ひ
ご趣味は？
目の中に納豆を入れてまばたきすることです。
カーン
ご趣味は？
えっ!?
※美人で目の中に納豆を入れてまばたきするぐらいの趣味ならあたしゃ構わんよ。
★佐野市の女瑠衣・姫夢の作品
たくさんお金が動いても美香ちゃんの生活には何もさしつかえないのです！
今の政治家は信用ないね—
プン プン
そうだそうだ
なんで？
そ、それは…
※ちゃんと説明できる奴は少ないだろーなぁ。それでも自☆党に入れる奴何であんなに多いんだろーなぁ。

讀者サロン

今月の有難ひ御言葉
――アンケート葉書から

丸尾さんの絵はなんか小さい頃ドキドキしながら描いた女性の裸の絵のようで、なつかしかったり、切なかったり、かくして持っておきたいって感じで好きです。安彦さんの娘もとっても愛くるしくていいですね。【大阪市・20才♂】

丸尾末広さんの特集はすばらしかった。ガロのバックナンバーを買いたいと思う。【千葉市・17才♀】

丸尾特集よかった。インタビューがすごくいい。静岡駅ビルの本屋はいつもガロを2冊おいていて、丸尾末広の単行本（青林堂の）が、初めて行ったとき、けっこうたくさんおいてあった。でも次に行ったらなくなっていた。【静岡市・19才♀】

丸尾末広最高！酔いしれてしまいました。「丸尾地獄Ⅱ」楽しみにしています。早く丸尾地獄にドップリつかりたい。【清水市・23才♀】

丸尾さんの特集では、他誌にたまに掲載される犬神博士のことについても触れてほしかった。本の装幀・イラストなどについても、漫画以外のお仕事ということで語ってほしかった。ところで丸尾さんはたばこを吸うのでしょうか。【仙台市・24才♂】

★丸尾先生は以前は吸ってましたが、現在禁煙というほどではありませんが控えてられるようです。【編集部】

山田花子さんの墓参りに行き、道を間違えて10㎞近く歩いてしまった愚かな私。それにしても丸尾さんは凄い。凄いーとしか言いようがありません。単にボキャブラリー貧困なだけかも知れませんけどね。【柏市・15才♀】

丸尾末広氏の絵がスキだ。思うにガロはマンガというより「芸術」とか「絵画」に近いものがあると思う。さらさら流れるような内容は一つもない。こりかたまってよーが、もうイッてよーが作者一人一人の中身が見えるからガロは何度でも読みかえせるし何度でもイける。ずっともっていられるって、これってすごいと思うんよ？【宇都宮市・22才♀】

丸尾先生の特集とてもよかったです。来月がとても楽しみです。…私の希望は知久さんのイラストを、目次だけでなくもっといたるところにのせてほしいのです。【池田市・17才・♀】

先月号の予告を見てから、1ヶ月がとても待ち遠しかったです。親類の中に丸尾先生みたいに良識ある悪いおじさんがいたらいいのに、と思いました。高橋克彦氏の「丸尾末広ほど優しい男はいない」の言葉は、もっともだと思います。【西宮市・26才♀】

「エリツィン…」が最終回ということで思いきり期待しておったのですが、何となく、え？という感じで肩透かしの印象を持ちました。却ってインパクトが薄まって、最後がオチないと申しますか……。【練馬区・33才♂】

丸尾特集、漫画評論、西岡兄妹、ねこぢる、唐沢、三本が面白かった。ガロはわかりにくい分長く楽しめる・絵も上手いし。字も多いし。【富田林市・21才♂】

月夜、紅の老婆、鋼鉄人間、今月の面白かった3作に出ていた女性は、それぞれ私ごのみの雰囲気が出ていて嬉しかった。【仙台市・25才♂】

マンガ評論新人賞に応募した者です。選評を読みましたが、予想通りかなりきびしい指摘もあり、なかなかたいへんな世界だなぁと感じ入りました。しかし勉強になった点もあり、これを励みに次回もまた応募しようと思います。【西条市・27才♂】

丸尾氏の人生に共感したが、しきれないところもあった。その反面、「寄生獣」の話には愛通ずるところも多く、スパッと切ってあって良かった。デモね、丸尾氏のマンガはすきです。この特集で単行本もグッと売れちゃうよ。きっと。ぼくも買おうっと。【大津市・18才♂】

丸尾さんって最近はやってるみたいなのでこんな人なのか、っていうことがなんとなくわかったのでたのしかったです。【高槻市・20才♀】

ガロはあまり売っていないのでいつも泣きながら探すの。でも表紙のさわりごこちがとってもいいのでこのまま紙を替えたりしないでね。【相模原市・18才♀】

私はもしかするとガロを買っているくせにちゃんと読んでいないらしい。ぺらぺらめくって胸いっぱいになる。私はつげ義春に対してはもう…♥♥♥部屋につげ義春SPACEを作ってみた。なんともいい感じである。【いわき市・17才♀】

ガロを読むと「先にやられたな」感を感じさせる作品に出くわします。そんな時、僕は自分の無力を感じて悲しくなってしまいます。いっそのこと僕をズタズタに切り裂き、叩きのめしてくれる作品を待っています。【奈良県・18才♂】

根本敬の連載を初めて見たがすごかった。よんでるうちに不安になったがオチでホッとした。【富津市・16才♂】

西岡兄妹さんへ。むっちゃ好きになってしまいました。自分自身あのようなかんじの絵を描くのでまず興味をひかれそれ以後もうとりこです。【八幡市・17才♀】

津野裕子さんや、松井雪子、トウジョウミホさんらをのせてください。他誌との関係もあるのでしょうが、ぜひお願いします。【新庄市・30才♂】

根本氏の漫画はまたしても破綻していてすごかった。本当に何か（薬でも）やってんじゃないかと思わせる迫力がある。カットアップメリッド日本一品性下劣な成功例だ。バロウズファンはえらそうなクラブなんかいかず、ガロを読め。【中野区・26才♂】

三本義春さんの単行本はいつ出ますか？出るんですか？毎号おもしろすぎる!!【小平市・18才♀】

★ページがまだ足りませんが、もちろん予定はしていますので、ガロをしっかりチェックしていて下さい。【編集部】

ねこぢるうどんのぶたのくびがとれるところがおもしろかった。じぶんのかんがえてることとにてるから。

ガロ情報掲示板

BUY SELL PEN-PAL LIVE MAGAZINE

QUESTION ANSWER STAGE SUGGESTION

松沢呉一さん、四方田犬彦さん他、みんなたのしみにしているのはマンガ以外だったりするのね。ホントは。

【中野区・7才♂】

「美代子阿佐ヶ谷気分」よかったです。同棲とは切ないものです。すきだから一緒にいる、この単純で難しいこと。作品を貫く悲しみは世代を越えて私の心を打ちました。【大宮市・22才♀】

はやくみうらじゅん先生でてきてえ♥【新潟県・17才♀】

4コマGAROの別のバージョン「作詞GARO」「イラストGARO」など作ってみてはいかがでしょう。でも白取さん大変だよね。【神戸市・13才♀】

★いいかも知れない。という訳で、4コマ以外にも写真とか1コマなんかも募集しますんで『投稿GARO』宛に送ってちょーだい。【白取】

売ります

■自作カセットテープ。ハガキをいただければチラシを送りますので、それを見て買うかどうか決めて下さい。モネラホンカセットという名前です。

【〒362埼玉県北足立郡伊奈町小室6800-3 小林賢輔】

■ガロバックナンバー

91年…6・9・10・12月号

92年…1~12月号、93年…1~5月号

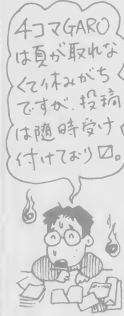
ONE・宮川匡代1~6

CIPHER・成田美奈子1~12

ジュリエットの娘・藤田味子1~5

BGMはいらない・前原滋子1~5

生徒諸君・庄司陽子1~24 ETC

※すべて新品同様

【〒299-01千葉県市原市青葉台7-8-14 佐伯直穂子】

★この方は掲載分量をオーバーしていましたので、購入希望の方はリストをお問合せ下さい。【編集部】

■芳澤ルミ子が撮るレトロ色した美少女写真（12×8㎝）三枚を62円切手6枚と交換しませう。アングラ好きの方は、必ずお気に召されると思ひます。

※種類多数あり

【〒253神奈川県茅ケ崎市中海岸2-2-1 芳澤ルミ子】

■『ウミネタの海5000収縮版』

（替え歌五千曲）1900円

『ウミネタの海ろくせんまでのせん』

（新作千曲）800円

送料タダ。他に格言ゴロアワセ四千もあります。詳しく知りたい方は往復葉書を、スグ欲しい方は郵便為替を。

【〒525-23三重県松阪市小阿坂町1405-7 池田徹男】

■『VIDEO DRUG THRASH CORE 3』〔SNOWBOARD〕を売ります。定価4800円だったもので、それから交渉したいと思います。L.A.からのスラッシュ・スノーボード・ビデオで、レッド・ホット・チリ・ペッパーズがナンバーで参加しています。62円切手か往復葉書でまずは連絡を。

【〒586大阪府河内長野市石見川77 内垣亜矢】

買います

■ちょっと違うかも知れませんが、マガジンマガジン（旧サン出版）から出ている大JUNEの17号と18号を定価で売って下さい。62円切手で連絡を下さい。

【〒680鳥取市古市301宮島優子】

■「クシー君の発明」「丸尾末広only you」「丸尾地獄I」「夢のQ-SAKU」以上を定価＋αで買います。送料当方負担。

【〒663兵庫県西宮市段上町8-6-14吉田早苗】

■「丸尾末広only you」

東京おとなクラブ刊を¥3000で

「Let's go幸福菩薩」根本敬

JICC出版刊を¥3000で

「神の悪フザケ」山田花子

講談社刊を¥3000で。

【〒653神戸市長田区若松町5-5-1-1314 清水信泉】

文通希望

■絵と南洋と植物が好きな私です。文通と同時にイラスト・マンガも見せっこしてくれる人お手紙ください。（特殊すぎるものは苦手）

【埼玉県・たまむし・18才女】

■つげ義春、上村一夫、丸尾末広、昔の日野日出志の作品と、夢野久作が好きです。同好者を求めます。もちろんそれ以外のガロ読者の方も歓迎です。

【福岡県・スイセンカン婦人・23才男】

■初回切手同封、自己PRを書いてあれば、文通・友達確実です。沢山の手紙待ってます。

【秋田市・克己・22才女】

■極普通の人と極普通の文通をしたいと思っている私は、極普通の人ではありませんが、極普通のガロ読者の方、どうぞお手紙を下さい。よろしくね。

【東京都・普通って何?・20才女】

■幻想的なものや怪奇的なものが好きな人なら誰でもいいから文通してくれる人をお待ちしています。ちなみに僕は、楳図かずお、花輪和一、江戸川乱歩、宮沢賢治、堀ちえみ等が好きです。

【東京都・弥生町・26才男】

■こんにちは。美大受験なので、予備校に通って勉強にはげんでいます。感性のようなものに出会いたいです。頭が良くて宇宙人的センスを持っている人、男女不問。動物園はやせる。

【福島県・さすらいのジャム男・17才女】

■最近、つまらないので文通して下さい。好きなのは、たま・少年王者館・丸尾末広・山田花子・さねよしいさ子などです。年齢・性別は問いませんが、近県の方が良いです。

【神奈川県・わるつの・17才女】

■本の好きな方と文通したいです。

【千葉県・村上春樹・17才女】

■はいコンニチワ。私は思想的に旧パンクス、現在右翼な奴です。知的インパクトがあり、カッコイイあなた、私と文通しませんか?女性歓迎。

【東京都・憂国ちゃん・23才男】

■知らないようで実はいろいろ知っている方、お話しましょう。夢野久作、勅使川原三郎、横尾忠則、丸尾末広、NHKの2時間ドラマ、イギリス、ロシア的なものが好きな私です。

【宮城県・サンドリヨン・22才女】

■私はまだガロを読みはじめたばかりなんですけど、みうらじゅん先生とガロの事を色々教えてくれる方、お手紙下さいね。返事は確実です。絵を描くのも好きな方もまってます。

【新潟県・みみたん・17才女】

★注意・年齢を明記しない場合は本来一切掲載致しません。以下の方、ご注意下さい。

■葉書での（短文つき）イラスト交換しませんか?どんな絵でもかまいません。返事は120%、デモ強要はしません。できれば長くつきあいませう。

【新潟県・蛸のペン吉・?才女】

■精神分裂病の世界を映像にするビデオドラマに出演してくれる15~22才の女性を募集します。あと都内近郊で会える人で友達募集。天野可淡、安部公房、つげ義春、鈴木翁二、そして何よ

りも谷山浩子さんのファン。
【東京都・本当に蛇口のない人間・年齢不明男】

情報

■青林堂様にはいつもお世話になっています。水木しげる公認ファンクラブ・水木伝説です。全国の水木しげるファンを1人でも多く集めるため会員を募集しております。62円切手同封の上以下まで。
【〒654-01神戸市須磨区北落合3丁目38-217-709 馬場方 水木しげるFC入会希望宛】

■元4コマ師範の古山啓一郎が、ライブ活動を行ってます。インチキテクノポップの雄、『コペル21』の今後の予定は
5月2日(日) 渋谷LA-MAMA 昼1時~
5月18日(火) 新宿JAM 夜7時~
なお、デモテープもあります。
【〒120東京都足立区千住仲町10-6-104 古山啓一郎】

■こんにちは、スカラベ地蔵です。この度、4月1日~13日渋谷アートワッズでの「赤裸々な束子スペシャル」にゲスト参加しますが、出演時間などは不定ですので知りたい人は以下まで。メンバー・スタッフ募集中。
【〒110東京都台東区東上野3-34-10片山荘 鶴岡法斎】

■演劇情報
新宿梁山泊第16回公演「それからの夏」
鄭義信・作 金盾進・演出
6月17日(木)~20日(日)夜7時~
土曜2時有り、日曜2時のみ
大阪伊丹AIホール(☎0727-82-2000)
東京公演
7月2日(金)~12日(月)夜7時~
土曜2時有り、日曜2時のみ6日休演
渋谷シードホール
料金は前売¥2800当日¥3000。
詳細は03-3380-5827
新宿梁山泊事務所まで。

■自主映画
「魔法使いの伝記」上映
監督・石井桂奈子、制作・藤田哲、音楽・平野剛、主演・関本三和子
日時…5月1・2・3日6時開場
場所…新宿シアターPoo(新宿駅南口甲州街道沿い)☎03-3341-8992
料金…1000円(ドリンク付)
問合せは
☎03-3247-6733石長まで

サロン掲示板利用の掟

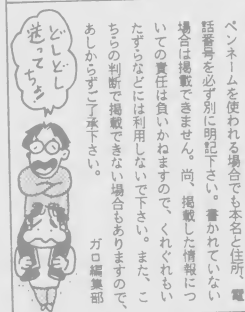
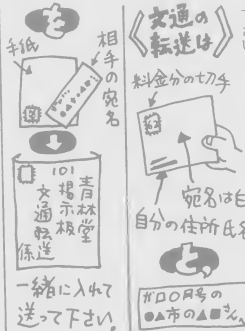
●お便り
『ガロ』の感想や身辺雑記でも何でも書いてお送り下さい。必ず封書で、1200字以内でお願いします。文章の後には【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】を明記下さい。ペンネーム使用の場合は【】の外に本名を必ず記載して下さい。
※お便りは当欄宛てで規定の字数ならば原文そのままで記載しますが、アンケート葉書に記載されたものは、こちらで要約・抜粋などさせていただきますので、ご注意下さい。また、作家へのファンレターは従来通り宛名を「青林堂気付 ○○先生」と書かれていれば開封せずに転送致します。

●売ります買います
「売ります」の場合は、その物の簡単な説明と希望価格(「応相談」でも可)の後に、【住所、本名、年齢、性別】の順に記載した用紙を入れて下さい。ペンネームは不可。電話番号は【】の中に記載すれば掲載して良いものと判断します。「買います」の場合も右記と同様です。掲載後の交渉は、本人同志で行っていただきます。

●情 報
演劇、ライブ、同人誌、その他何でもお寄せ下さい。情報はなるべく簡潔にまとめた上、情報提供者の【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】を明記下さい。

●Q&A
『ガロ』の事や作家の事、昔の作品の事等々、疑問があったら何でもお寄せ下さい。お答えできる範囲で誌上でお答えします。疑問の後に【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】の順に記載して下さい。

●文 通
文通希望の方は、原稿用紙もしくは便箋に百字以内の自己PR(メッセージ)の後に、【住所、ペンネームか本名、年齢、性別】の順に記載して下さい。ペンネーム使用の場合は【】の外に本名を必ず記載して下さい。
また掲載された文通希望の方に応じる場合は、希望する相手への手紙は、封筒に入れて封をした上、宛名を書かずに当該料金分の切手を貼付し、裏に必ず自分の住所氏名を書いて下さい。それに、「○月号掲載の○○さん宛て転送希望」と書いた紙と一緒に、文通回送係までお送り下さい。

■情報掲示板に掲載をご希望の方は、以上の要領で、〒101東京都千代田区神田神保町1-62 ㈱青林堂 読者サロン・掲示板○○係までお送り下さい。【】の中に記載されたものは誌上に掲載してもかまわないものとします。その際、ペンネームを使われる場合でも本名と住所、電話番号を必ず別に明記下さい。書かれていない場合は掲載できません。尚、掲載した情報についての責任は負いかねますので、くれぐれもいたずらなどには利用しないで下さい。また、こちらの判断で掲載できない場合もありますので、あしからずご了承下さい。
ガロ編集部

■『ガロ』情報掲示板の掲載〆切は毎月15日です。それを過ぎた場合は次号掲載となりますので、ライブや演劇の情報はご注意下さい。(翌月1日発売)
掲載した文通希望の方への回送有効期間は、発売から一ヵ月(消印有効)となります。それを過ぎて到着した回送希望のお手紙は転送できませんので、ご注意下さい。(例えば『先々月号の○○さんへ回送希望』というお手紙は回送出来ません)
㈱青林堂 月刊ガロ編集部・読者掲示板係

Q&A

●Q *ポンチャックなる音楽、根本さんはどこであんなものを手に入れたのでしょうか。日本国内で売っているのでしょうか。【前橋市・17才♂】
●A *根本さんは韓国へ行った際に、大量にまとめ買いしてくるようです。国内だと、韓国の方がやっているマーケット(輸入品を扱っているところ)なんかに置いてあるところもあるのでは。【白取】

●Q *安彦麻理絵氏の『犬のように丸くなって眠りたい』の方言は何弁なのでしょうか。(福島か山形だと思うのですが)【福島市・16才♀】
●A *山形弁だと思います。【志村】
●Q *読み始めて日が浅いので、作家の名前の読み方がわからないんです。【別府市・17才♀】
●A *具体的にわからない人の漢字を書いて送って下さいね。【白取】
●Q *『夢のQ-SAKU』は、もう2年くらい前から品切れ状態だと思いますが再版の予定はまだないのでしょうか?【明石市・20才♀】
●A *申し訳ありません。5月末には再版の予定です。【谷田部】
●Q *みうらじゅんさんの『アイデン&ティティ』のような漫画で音楽(特にロック)を扱った作品を教えて下さい。【大阪府・16才♂】
●A *たくさんありますので、詳しくは次号の特集『ガロとフォーク/ロック』をご欄下さい。【手塚】
●Q *松沢呉一さんがDJをしているラジオはいつどこでやっているのかおしえてください。【八街市・22才♂】
●A *松沢氏に問い合わせたところ、残念ながら3月一杯で終了したそうであります。また何か機会があったら、ガロ誌上でお伝え致します。【谷田部】

噂のガロショップ 早稲田に近日オープン! 詳細は次号にて発表!

GOSSIP & BOOK INFORMATION

☆先日、自ら制作（原作・監督）にあたったファンタジックアニメーション**「銀河の魚」**の完成試写会が催され、ニコニコ顔の**たむらしげる**氏の**自選作品集「こわれた月」**が**リブロポート**より**発売中**。（定価3605円）12枚のカラーイラストが1枚〳〵**ボード**になっており、お部屋にも飾れる**ステキ**な画集です。ここしばらく品切れになっていた小社刊**「スモールプラネット」**も近日再版を予定しています。ポカポカ陽気にピッタリな、**タムラワールド**が**満喫**できそう。

●『銀河の魚』完成試写会場で御挨拶するたむらしげる氏

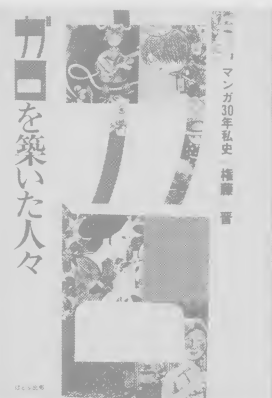
☆**『ガロ』を築いた人々**

66年から71年までの6年間を編集員としてガロと共に過ごした著者、**権藤晋**（高野慎三）氏。

何故か今までそれほどガロについて語ることをしなかった著者だが、本書には70年前後、マンガによる**自己表現**を試みた作家達との交流が一気に書き下ろされいる。

ポール・マッカートニーがビートルズ時代の曲を再演し、権藤氏がガロについて語るというのは、過去として冷静に見つめられるだけの時が流れたということだろう。60年代は遠くなりにけりというところか。

尚、オビに書かれた「著者は徹底して趣味の人である」という**山根貞男**氏の指摘は全く正しい。ほるぷ出版、定価千四百円。

㊄**「原子水母」**（ぶんか社刊・定価780円）**「鉄鋼人間正太郎伝」**が本誌**好評連載中の唐沢商会の新刊**。月刊まんがシャレダ!!に連載されている作品を中心に編めたちょっとエッチな（と言っても普通のエッチではない）一冊。カバーデザインは**久住昌之氏**。

卍今年5月4日で没後10周年を迎えるにあたり、書籍・CD・演劇等多岐にわたる分野での隆盛を見せる寺山修司。**「現代詩手帖4月臨時増刊・寺山修司1983〜1993」（思潮社刊・定価1200円）**では、氏が残した発言や行動の、現代に於ける有効性を実証すべく、単なる追悼に止まらぬ誌面作り

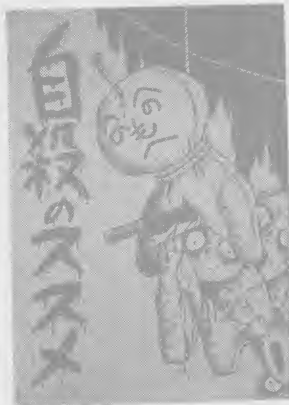
を試みている。**高取英・黒川創・とうじ魔とうじ・巻上公一・大槻ケンヂ**等が執筆している他、**根本敬**氏の脳内麻薬成分分泌漫画もある。尚、とうじ魔氏がエッセイ・死後年譜・座談会特殊傍聴人等、精力的な協力をしている。

★前作「磯野家の謎」がバカ売れ!!で**社員に臨時ボーナスが出た**とゆう飛鳥新社から、続編の**「磯野家の謎・おかわり」**が出た。もはや何も説明は不要、すでに購入された方も滅茶苦茶多いとは思います。単なる前作の「二匹目の泥鰌」ではなく、ちゃんと新たな発見が一杯。それにしても「サザエさん」という「国民的キャラクター」を作り上げた**長谷川町子先生は偉かった**。誰もが共通語として語れるこの本はたったの900円、であります。ちなみに**タラちゃんは昭和21年産まれ**だそうで、**バリバリの「焼け跡派」**という事になります。

★**「りん子」**(宝島社刊・定価千円)叙情漫画家**タナカカツキ**氏の**「不思議」と「綺麗」**がいっぱいの新刊。

そんな**タナカカツキ**氏とマシュマロウェーブの**小林拓生**氏のメガトン級ビデオユニット**「文字坐り」**の**「傑作集ビデオ」**(二千六十円)も通販中、問い合せ(03)3328—0041ウェルカムアーチストまで

☆日本女性の**全裸写真**を前後から全く同じアングルで記号的に並べ、この時代の女性の記録として残そうという斬新な試みの写真集「YELLOWS」が、ヘアが写っている、という**下らぬ理由**で発売中止になってしまった、写真家の**五味彬氏**。ミシェル・ベルトン師事し、**日本を代表するファッションカメラマン**でもある氏の**怒り**は、同じ日本女性の裸体をモチーフにしながら、**緊縛写真**にぶつけられた。猥褻っての はこういうのもを言うのだ、とばかりに撮られたこの写真集**「緊縛写真」**には、副題に「YELLOWS THE REVENGE」**(復讐)**とある通り、もう一つの「YELLOWS」だ。ミリオン出版から、定価二千円。

■ガロ4月号でもご紹介した、ウルトラ変態ヴァイオレンスパンクバンド・**ハイテクノロジー・スーサイド**のオリジナル本**「自殺のススメ」**を、ライブに行けなかった人達のために**通販してくれるぞっ!!**もう一度ご紹介すると、表紙は**日野日出志**氏で**根本敬、マディ上原、友沢ミミヨ、蛭子能収**氏らの漫画も入っているという、マニアなら絶対手に入れなければ後悔必至!の一冊。お申込みは**必ず郵便小為替で送料込み800円を、〒101東京都千代田区神田鍛治町2—5—11ミハラビル3f神田私書箱センター473号「インテグラルレーベル」まで**、「自殺のススメ希望」と明記した上、ご送金下さい。**お見逃しなく!!**

☆さる4月1日より13日までの期間、渋谷の**アートワッズ**にて開催された**中ザワヒデキ**氏の個展**『赤裸々な束子スペシャル』**は、オープニングより連日**超満員**の**大盛況**であった。入口に吊された**束子**によるけが人もおそらく**千人**ぐらいはいたようすである。開期中は氏自ら企画された楽しい**イベント**が数々あったが、11日(日)には〝**中国茶会は「ガロ」でも読みつつ…**〟というガロサミットとも言うべき今後のガロを占う**大討論会**も開かれた。ゲストには、**王選手、ドクターGR、小沢剛**各氏が参加、結果**「不況に強いガロ」**であることが判明、バブル以降**「時代はガロ」**が'90年代若者のスローガンとなった。現在中ザワ氏は次号よりの**新連載**企画を模索中、読者は**刮目して待て!!**

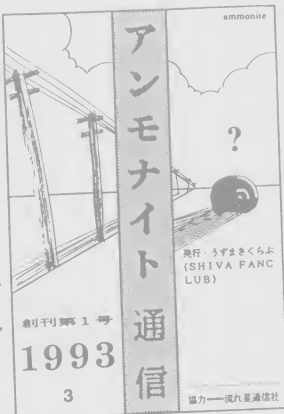
●王選手によるダンスパフォーマンス

●「中国茶会はガロでも読みつつ…」に集まった人々(中央中ザワヒデキ氏)

◎しりあがり寿個展
「H。カゼギミビッチ氏のくらし」
日時／5月20日～6月1日
場所／渋谷アートワーズ
問い合わせ／☎03－3770－1929

単行本**「コイソモレ先生」**が大好評のしりあがり寿氏が初の個展をひらきます。主人公の**風邪気味男**の日々をいろいろなテーマで描いてゆく、というちょっと変わった展開を繰り広げる予定です。個展を見にこられた方々は、きっと**暖かい鼻水**がたれてくることでありましょう。**花粉症の方**もどうぞ！

●**「ドキュメント連続少女殺人――弧高の鬼・吹上佐太郎」**（ハロル舎刊・定価二千二百円）
小社刊**「地獄変」**でも**すばらしい**解説をかいていただいた**蜂巣敦氏**の新刊。近代における性的連続殺人者の元祖的存在である吹上佐太郎を中心に**日本型連続殺人のメカニズム**を考察した一冊。これはスゴイ!!

◎去年久しぶりにCDを発売した**三橋乙椰（シバ）**氏の**「帰還」**がお茶の水のディスクユニオンで、去年の年間売上の**ベスト3**にランクされました。凄いぞ！またシバが中心となって発刊している**「アンモナイト通信」**ではシバの活動予定が分かるし、ナント詩、エッセイ、イラストなどの投稿も募集しております。投稿希望の方は青林堂気付で**ドシドシ**応募しよう！

シバ・5月ライブスケジュール
1日／岡崎・八曜舎　3日／大阪・バナナホール　6日／京都・拾得　8日／神戸・春待ち疲れBAND　11日／広島・クレメンタイン　12日／尾道・満鉄と金ぼたん　13日／倉敷・カロ　14日／名古屋・キャラバンサライ　15日／岐阜・MAGAZINE　16日／岐阜・高山・ピッキン
近所のお住まいの方はみんなで行こう。

☆先月の特集でのインタビューが大好評だった**丸尾末広氏**、いやあ、なかなか貴重な人生を歩んでいらっしゃったようで、スゴイでんがなっ。さて、ファンの皆様、**朗報**でございます。先月号でお知らせした**シルクスクリーン**ですが、丸尾さんのご厚意により、**描き下ろし**（もちろんカラーです）での制作が決定しました。絵が出来次第、広告をうちますのでどうか**お見逃しなく！**

♥**今月の特殊漫画大統領**♥
惑星直列を迎え、ますます忙しさに拍車がかかっている我らが**根本大統領**ですが、今月の「ひさご」完成記念インタビューで「もうガロには長編を描かない」と**問題発言**をされておりました。おっとドッコイそうはいかねえぜ、**精子三部作**が終ったら今度は○○とか☆★とか、まだまだテーマはありまっせ、そんな訳で全国の根本ファンの読者兄は青林堂気付で根本先生宛てに**「長編希望」**のお手紙を出そう！

♨新宿武蔵野館でレイト上映中の、**アングラ文化＋ゲイ・ファンタジー映画「ピンクナルシス」**をモチーフにした**イベント**を**5月29日(土)クラブチッタ**川崎でやります。モア・ディープ、VIDEO RODEOのライブ、ゲイの人のメイルストリップショー、ピンナル君コンテスト（ナルシスト大賞）等、**ゴージャスなパーティ**。前売券3千円、当日券3千5百円（チケットぴあで発売中。）**お問い合わせ**は044（244）7888・クラブチッタ川崎まで。

■**お詫び**
ガロ5月号の四方田犬彦先生の連載『犬も歩けば』で、文の脱落がございました。
P226、上段21行目
【誤】…新作『ダメージ』の訃報を知らされた。
【正】…新作『ダメージ』の試写会を観て帰宅すると、オードリー・ヘップバーンの訃報を知らされた。
四方田先生並びに読者の皆様に謹んでお詫びして訂正させていただきます。
ガロ編集部

◎来る六月二十二日～二十七日、塩竈市民交流センターにおいてガロのイベントが開かれます。

会長の長井勝一氏そしてビックなゲストの方々の講演もあるっ！　詳しくは次号にてお知らせいたします。

■ご連絡

宮城県気仙沼市の金澤裕樹様、定期購読でお送りしたガロが転居先不明で戻ってきてしまいました。もし本欄をご覧でしたら、編集部まで至急新住所をご連絡下さい。

♥今月の長井勝一♥

4月の14日が誕生日のワガ長井会長。誕生日を祝う身内の宴会が阿佐ヶ谷で行なわれました。年男で御年72歳とあい成った訳でありますが、**「金日成の野郎と一日違いなんだ。」**北朝鮮の「偉大なる首領様」は4月15日だそうで、その後話は満州での武勇伝、終戦直後の話…と盛り上がったのでした。ちなみにワガ会長は現在体重34キロ、一番太っていた時は60キロ以上あったそうであります。さらに編集部では谷田部周次営業本部長が48キロ（公称50）、白取平社員は68キロとその差20キロとゆう事になっております。ああ…

残飯整理

床が抜ける!!

❀今月からガロ編集部増強大計画により山中新編集長をはじめ、大場新入社員、北園一哉営業部員、浅川満寛特別編集部員も加わり、編集後記新人大行進！となりました。働らかざる者食うべからず、をモットーによりパワーアップのガロ編集部をますますヨロシク!!

♡名ばかりとは云え編集長になれて嬉しい。長井さんの偉業には届かぬが、歴代の先輩編集者を目指して努力する。それに僕の憧れたガロの姿を現在風に再現してもみたい。素人ゆえ外れたこともするだろうが、それすら雑誌の勢いに出来ればいいのだが……。

最大の課題は孤高と化した本誌を如何に時代とリンクさせるかだ。その前に自分の怠け癖（特に寝坊）を直そう。　（山中J）

↑♂憧れの李桜蘭女子にお願いして、ツーショット写真を撮らせていただいた。予想外に柔和な明るいお人柄で、軽い驚きが湧く。プレーのさい、奴隷が何を欲っしているのかを即座に捉えるのがコツだとお仰しゃるだけに、ヒトのココロの機微や場の雰囲気には敏感なのだろうか。奴隷になるには5年早いと言われた俺は、何をかくそう焦らされるのに弱い。　（その）

㋹初めて編集に参加するのでアガってしまったのか、〆切3日前にインタビュー3本分（約2万字以上）の入ったディスクを誤ってフォーマットしてしまった。今から打ち直すんだけど果たして間に合うだろうか。編集後記を書き終えた後に、一から仕事をやり直すとは……　（浅川）

◎私の住んでいるアパートはワンニーケーです。つまりキッチンが2つあるのです。でも最近は湯を沸かす事にしかつかってないので、ますます2つもあるキッチンの意味がわかりません。大家さんホワ～イ？　（大場）

♨最近原稿の持ち込みが増えているのはウレシイかぎりだが、来られる人自身や作品に少々覇気がないのが気になる。もちろん落とされたからって、編集部でトツゼン暴れられたりするのは困るが、もうちょっと「漫画やります!!」という前傾な姿勢で来て欲しい。ただし作品がツマらないのにヘンタイの人はコワイのでお断わりいたします。（周）

♬新人特集いかがだったでしょうか。最近は持ち込み原稿をよく拝見しますが、とにかく頁が足りず、掲載予定の作品がどんどん順送りになっていて、申し訳なく思っていたところにこの特集、一気に入選作品を掲載できる事を嬉しく思います。さてワガ編集部では最近急速にＯＡ化が進んでいる。ワープロは全部私物だが3台に増え、ノートパソコンは私物を1台入れて合計3台になった。パソコン同志は互換性があって大変便利ではある。てな訳で、どなたかご不要の高品位プリンタをめぐんで下さい。（こればっかし）（白取）

⛩自分がこの会社の新人だったころの事を思い出すとゾッとします。仕事のことは何もわからないのに、いきなり故つりたくにこさんの「六の宮姫子の悲劇」を作りなさい、と言われたときにはドキドキして貧血をおこしそうになってしまいました。そのくせ、まだ誰も出勤していない朝、椅子に正座してグルグル回って遊んでいたら、いきなり気分が悪くなって机にゲロを吐いてしまったこともあります。まっ、一度途中で抜けたにしても、あれから何年たったか忘れてしまいましたが、バカのくせにここまでこられたのも、一重に皆様のお陰と感謝する毎日であります。　（手塚）

❀大掃除を終えたみぎわパン嬢、部屋もスッキリしたし、心を入れ替え漫画制作に励んでいるそーだ。ファンの皆さんお楽しみに!!　（高市）

◐最近コーヒーを飲むようになったのですが、うまくきくときはいいのですが、ききすぎると何もしたくなくなるのでこまったものです。　（志村）

青林堂へいらっしゃる方は

【原稿の持ち込み】必ず前日までにお電話で確認下さい。平日は9：30～5：30の間受付け。遠方の方は郵送でも受け付けております。返却希望の場合は必ず宛名記入、切手貼付した返信用封筒を同封して下さい。返信用封筒の無い郵送原稿はお返しできません。また、投稿原稿の結果についてのお電話でのお問い合わせはお断り致します。

【本のお買い求め】原則として、小社刊行物は書店さんにてお求め下さい。直接お求めに来られる場合は、お電話でお求めの本の在庫確認をされてからの方が確実です。

㈱青林堂のご案内　事前にお電話で確認下さい。

〒101 東京都千代田区神田神保町1-62　☎03(3291)9556/2495 FAX 03(3292)7368

「夜 YAGYO 行」 No.18

●映画「ねじ式」を語る－石井輝男、つげ義春、久保隆●「海辺の叙景」と女－石井隆、つげ義春対談●初期単行本回想－つげ義春、権藤晋●作家の姿勢－つげ義春、菅野修対談●松竹大船撮影所－西河克巳●松竹助監督時代－鈴木清順●湊谷夢吉とアンモナイト－山田勇男●少年王者館とは何か－天野天街、南日れん対談●貸本マンガとつげ義春－岡田晟

▶作品－伊藤重夫、菅野修、三橋乙揶、南日れん、斎藤種夫、髙橋太、他。

▶定価 2,000円、発売中!!

紅犯花	林 静一初期画集	￥2500
花ちる町	林 静一劇画作品集	￥2575
つげ忠男読本	つげ忠男・つげ義男	￥2575
三橋乙揶読本	三橋乙揶・知久寿焼	￥2800
犬泥棒の夜	菅野 修作品集	￥2600
虹竜異聞	湊谷夢吉作品集	￥2600
夜行⑨～⑰	つげ義春、伊藤重夫他	￥1200～2000

北冬書房 〒153 東京都目黒区大橋1－4－10 ☎3461－2834 振替東京5－120453

☜「11宮」創刊号
特集・黙示録の世界
オカルトから黙示へ／
ヨハネ黙示録イメージ解読／
言霊による古事記
真解／我が黙示録、他
連載・異形のエロトピア（シャムツインズの愛情生活）他
5月初旬発売、以後季刊予定／定価1150円（送込み）
前払い定期4冊分4300円（LHSMと同じく後払い定期可）

原 企 画

LHSM☞
変・奇・珍情報満載
毎月25日発売
定価700円（送込）
前払い定期3600円（6冊分）
後払い定期購読も可。下記まで
御連絡を

「11宮」創刊記念大バーゲン実施！（八月末日迄）カタログ送ります。百円切手同封で下記へ

〒164 中野区弥生町5－27－1－202 南原企画 ☎03－3383－4857（FAX同じ）郵便振替 東京5－180989 南原企画

青林堂

ガロビデオ

書店にて御注文下さい。

テレグラムガロ

ガロ漫画家ダイナマイトクレイジーパーティ!!

TELEGRAM ガロ

《GARO VIDEO 第1弾》

特殊漫画大統領、根本敬監修作品。丸々根本世界。内容、川西杏歌謡強烈映像。尹氏猥談抱腹絶倒。降霊山田花子霊。完全収録「男女物語」他盛沢山。麻薬的映像脳内浸透。
定価千八百円地獄税込。天国的安価。
映像現場監督・吉野達哉。

因果境界線

クアトロを騒乱の渦に巻き込んだ伝説のライブ!「大島渚」はみうらじゅんがナオミと化して、まるで多重人格だが自己同一性を説く熱唱。これはハマるぞ内田春菊歌姫様のヴォイス性感マッサー。久住昌之「モダンヒップ」が毛穴ゆるます気持ち良さと、ガロ執筆陣豪華多数による濃厚トークに加え、蛭子能収のヨイトマケの唄を収録。
定価3200円(税込み)。

絶賛発売中

昭和45年発表当時、有害図書として囂々たる非難を浴びた本作品を、これまでの単行本では削除されてきた部分も増補して完全復刻。

いまだない、かつてありえたマンガの未来

ぱるコミックス

以下続次刊行

■赤塚不二夫　狂犬トロッキー
■真崎 守　共犯幻想　上・下巻
■滝田ゆう・野坂昭如　怨歌劇場

ぱる出版
〒160
東京都新宿区本塩町8番地エーデルホーフ
TEL.03(3353)2835　FAX.03(3353)2887

第二回マンガ評論新人賞募集

日本の現代マンガは、質的にも量的にもきわめて高度な発達を遂げ、諸外国からの関心も高まっている。しかし、実作に比して評論・研究は著しく遅れ、各種マンガ賞がマンガの実情を必ずしも反映しなかったり、ジャーナリズムのマンガ論議が的外れであったり、という遺憾な現象もしばしば見られる。このような現状を憂慮し、マンガ評論・研究の深化と拡大をはかるため、マンガ評論新人賞を設立する。

一九九二年五月一日

詮衡委員会（五十音順）
呉智英
村上知彦
米沢嘉博
協力「ガロ」編集部

1 賞の種類と賞金

①マンガ評論新人賞（五十万円）
②同奨励賞（十万円）
③佳作

各賞に人数の枠は設けない。また、本誌掲載の場合、賞金の他に規定の原稿料が支払われる。

2 応募資格

新人であること以外、年齢・性別・国籍等は一切問わない。新人とは、マンガが評論・研究の単行本を出したことのない者とする。ただし、自費出版はこの限りでない。マンガ隣接の文芸・映画・美術等の評論・研究の単行本を出したことがある応募希望者は、問合せをされたい。

3 評論の対象・形式

現代マンガに対する未発表の評論・研究。種類や形式は限定せず、作家論、作品論、マンガ史研究、評論史研究、ルポルタージュ等を広く含むものとする。現代より前のマンガや外国のマンガに関するものも、現代マンガを考える上で有益なものは本賞の対象となる。

4 詮衡

詮衡委員会の合議による。各委員のマンガ論・マンガ観と対立する作品であっても、そのことによる詮衡上の不利益は一切生じない。

5 枚数・その他

四〇〇字詰原稿用紙で20枚を下限とする。ワープロ原稿も可。いずれも、日本語・縦書き、点字原稿は墨字訳を付ける。必要な図版類があれば、出典明記の上、コピーを貼付する。また、本文の後に、住所・氏名・電話番号・生年月日・最終学歴・職業を記した別紙を添える。応募原稿は返却されない。

6 締切り、発表

毎年十二月十日を締切りとする。結果は翌春の「ガロ」誌上で発表される。

7 本賞の存続

本賞の賞金および掲載作の原高料は、呉智英「現代マンガの全体像・増補版」（史輝出版）の印税によってまかなわれる。同書の印税発生がなくなった場合本賞の継続が中止されることもある。

あて先　〒101　東京都千代田区神田神保町一—六二　青林堂内「マンガ評論新人賞」係

月刊ガロ新人大賞 長井勝一賞 募集

月刊『ガロ』は、1964年の創刊以来、商業的には小さいメディアながらも、常に新しい才能を発掘し、新しい表現分野を開拓してきました。『ガロ』からデビューされた作家の方々は、単に漫画という一表現にとどまらず、様々な分野で活躍されている方も少なくありません。また『ガロ的』という言葉も、やはり単なる漫画という一ジャンルのものではない筈です。ですから、漫画作品として優れている事はもちろん、今後の幅広い活躍を予感させる、ユニークかつ独創性のある作品を募集します。

商業誌に未発表作品であれば、従来の「漫画」という様式に囚われない斬新な作品でも結構です。（ただし作品として完成されたもの）

今後『ガロ』への投稿作品はすべて長井勝一賞の選考対象となります。

※応募要領※

①原稿内枠サイズは、天地が273mm・左右184mmです。
②一色で、墨汁または黒インクを使用のこと。
③せりふ、ナレーションは鉛筆で入れること。
④うす墨は不可。中間色はスクリーントーンを使用してください。
⑤原稿用紙全体の大きさは問いませんが、断ち切りは15mm以上延ばして下さい。
（従来のガロ投稿作品要領と同じです）

※応募規定※

※年齢・性別などは一切問いません。
※必ず原稿の最終頁の裏に、住所、氏名、年齢、電話番号を記入して下さい。
※原稿返却希望の方は、切手貼付の上、返信用封筒を同封して下さい。

投稿宛先　〒101 東京都千代田区神田神保町1-62
（株）青林堂　長井勝一賞選考係

審査員長　長井勝一（青林堂会長）

※選考結果の発表は、月刊ガロ誌上で行う予定です。勝手ながら、お手紙やお電話でのお問い合わせは一切お断りさせて頂きます。

ひさうちみちお作品集Ⅰ

パースペクティブキッド

"キッド"11本完全収録!!

悪魔の仕業かそれとも天使の仕業か。
したたかな愛の妄想が更たに甦る。
ファン待望の作品集第一弾!!

五月二十五日発売予定
A5判上製・定価千五百円　青林堂

いこい写真帖

憩写真帖単行本限定千部
定価3千8百円(税込み)
特別限定版(憩バッチ他オマケ付)
も考案中。予約受付はガロ誌上にて
詳細決まり次第お知らせ致します。

ICOI Photo
ILLUSTRATED
by
G, NUMATA

青林堂